開催ごあいさつ

TC 協会会長

岸 学

一般財団法人テクニカル
コミュニケーター協会　会長

みなさん、学校での授業や学習を思い出して、それらを次の８つに分類してください。①「わかるから面白い」、②「面白いからわかる」、③「わからないので面白くない」、④「面白くないのでわからない」、⑤「わかるけど面白くない」、⑥「面白くないけどわかる」、⑦「わからないけど面白い」、⑧「面白いけどわからない」。すべて思い当たる授業があると思います。最初の①から④までは当然といえます。①と②は完璧な授業と学習の結実です。③と④はさぞつらかったでしょう。⑤と⑥は簡単で退屈な授業だったでしょう。では、⑦と⑧は？実はこれが人間の知的活動として最も高度で高級なものと思います。「わからなさ」を解明しようとする大きなエネルギーを「面白さ」が後押しするのですから、エネルギーは持続し、増幅され、次々と新たな知が創造されるはずなのです。教員の立場からみると、この⑦と⑧の状態を引き出すために、授業内容や教材や発問などを徹底的に工夫し洗練させているのです。「面白い」という気持ちは「わからない」という認知を凌駕できる！

今回のシンポジウムのテーマは、「“ やってみたい ” を創造する UX」です。説明のわかりやすさを追求するのは勿論ですが、それに加えて、「面白い・うれしい・楽しい」などの要素を考えていこうという取り組みです。我々の知的探求心の根源に関わるテーマです。「面白いけどわからない」「わからないけど面白い」マニュアルとはどんなものなのでしょうか？良くないマニュアルであることは事実ですが、一考に値すると思いませんか？皆様の活発なコミュニケーションを期待しています。

経済産業省

小松原 繁

経済産業省
商務情報政策局
文化情報関連産業課
課長補佐

このたびは、テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2012 が関係各位の皆様のご尽力により盛大に開催されることに、心よりお慶び申し上げます。

この春、経済産業省は技術戦略マップ 2012（コンテンツ分野）を取りまとめました。この中で、今後特に重要になるコンテンツ技術分野のひとつとして、「サービス提供技術の向上」を選びました。サービス提供技術とは、ユーザーと製品やサービスとの双方向的な情報交換によって、ユーザーをこれまで以上に満足させるための技術を意味しています。このような技術の発展にはユーザー側も製品やサービスの持つ機能を十分に理解することが不可欠であり、貴協会の皆様の果たすべき役割も、より一層重要なものになると考えられます。

貴協会におかれましては、1992 年に設立されて以来、使用説明技術の向上、専門家の育成、関係者間の人的交流、標準化や国際交流の推進など、多面的な活動を着実に実施されてきております。今回のシンポジウムにおいても、参加者の皆様が最新のテクニカルコミュニケーションの動向に触れ、これまで以上に知見を深めることとなるものと期待しております。

結びに、テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2012 の成功と、貴協会及び御関係の皆様の一層の発展を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

実行委員長

守島 浩

（株）日立製作所
情報・通信システム社
IT プラットフォーム事業本部
開発統括本部
ソフトウェア本部 ユーザエクスペリエンス設計部 部長

日本のものづくり産業は、グローバリゼーションの潮流の中、貿易の自由化の波、円高による輸出産業の打撃、アジア諸国をはじめとする新興国の台頭と工業製品のコモディティー化の進行など国際競争の激化にさらされ、取り巻く環境は激変しています。安くて良質な工業製品が大量に流通する買い手市場の時代となり、新たな軸を持って市場価値を高めていかなければ、我々の生き残る道はないと言わざるを得ないでしょう。
四半世紀にも及ぶシンポジウムの歴史において、危機感を共有し新たな時代への希望を指し示すことを今年のテーマにしたいと考え、UX（ユーザエクスペリエンス）を選びました。
UX とは、お客様が製品やサービスを購入し、それを使用する際に得られる質の高い「経験」や「体験」を作り手の提供価値とする考え方です。
ここ数年で、お客様にとって本当に重要なことは、機能や性能ではなくなってきました。その製品を使うことで、仕事が楽しくなったり、やりたかったことが簡単に実現できるようになる。お客様がシステムに合わせるのではなく、システムがお客様に寄り添う。そのような体験や経験に大きな価値を見出し始めてきたのです。
今年のシンポジウムでは、「UX とは何か？」から、「どのように UX を実現すればよいか？」といったことまで、様々な事例に基づき、UX について議論していきたいと考えています。
今年は、昨年大盛況でした京都会場の規模を維持して、東京と京都を同規模開催とすることにしました。その様な活気あるシンポジウムにおいて、弊社が幹事会社として微力ながら貢献させていただけること、新たなテーマでの開催にご理解をいただきましたことに、TC 協会並びに関係者の皆様に深く感謝致します。また、この様な取組みを通して、日本のものづくり産業が危機を乗り越え、益々発展していくことを祈念致しております。

関西地区代表

村田 珠美

（株）テックコミュニケーションズ
制作部マネージャー

情報の「探しやすさ」や「理解しやすさ」を、いかにしてお客さまに提供していくのか？
この課題への取り組みとして、私達テクニカルコミュニケーターは「情報を整理して伝える」ことを常に追究してきました。「情報を提供する」だけでなく、いかに整理してわかりやすく伝えるかがテクニカルコミュニケーターに求められている重要な役割であることは、これからも変わることはないでしょう。
情報は五感を駆使することで、より伝わりやすくなります。視覚や聴覚はもとより、実際に触れる・体験することで、製品やサービスに親近感が増し、理解度は高まっていきます。このときにお客さまが感じる「うれしさ」や「心地よさ」をテクニカルコミュニケーターが届けられることを目指して、今年のテーマを決定いたしました。
“ やってみたい ” を創造する UX
このテーマへの取り組みは、使用説明をどのようなシーンでお客さまに活用していただくのかを見直す機会でもあります。使用説明は、お客さまが購入された製品やサービスの使い方を知るための情報であるばかりでなく、購入前に「使ってみたい」「試してみたい」というアクションを起すためのきっかけとしての役割をも担っていることにほかなりません。
シンポジウム開催が 24 回目を数える今年は、テクニカルコミュニケーター協会の創設 20 周年にあたる記念すべき年です。この記念すべき年を、情報を発信するメディアの多様性への対応はもとより、テクニカルコミュニケーターの担う役割を新たな視点で見つめなおす機会にしていただければと願っております。

東京開催 プログラムの概要

TC シンポジウム 2012【東京開催】に参加いただくには、入場券が必要です。
入場券は 2 日間共通で、基調パネルディスカッション、パネルディスカッション、事例・研究発表、および TC 関連商品紹介に参加できます。
特別セッションに参加希望の方は、入場券と特別セッション券が必要です。
本プログラムでは、次のような企画について、それぞれの内容をご紹介しています。

基調パネルディスカッション

TC シンポジウム 2012 では、従来の基調講演ではなく、基調パネルディスカッションを企画しています。本年度の全体テーマに取り上げた「ユーザーエクスペリエンス（UX）」とは何かについて考え、実践されている事例から、モノづくりや製品のコミュニケーション設計の中で、テクニカルコミュニケーターの担う役割を多面的に掘り下げます。長年 UX を実践してきた有識者や各社の現場での取り組みを実践している責任者などのエキスパート達が登壇します。

特別セッション

8 セッション（1 セッション 150 分）
ライティング、編集デザイン、UX 関連、制作ツール・管理など、実務経験豊富な講師による実戦的なセッションです。講師が、テーマ別にスキルや知識を解説し、学習と自己啓発の機会を提供します。ワークショップ形式による特別セッションには、参加者がその場で取り組む実習課題が含まれます。参加するためには、ご希望の特別セッションごとに事前にお申し込みください。

パネルディスカッション

10 セッション（1 セッション 150 分）
テクニカルコミュニケーションの旬な話題を幅広く取り上げ、制作プロセスやツールなどに関する最新の技術動向、業界動向などについて討論するセッションです。3 名ほどのパネリストが一緒に登壇し、各セッションのテーマに関して、最新の取り組み事例や動向を紹介し、今後の動きや留意点などをディスカッションを通じて浮き彫りにします。コーディネーターは、ディスカッションの進行をコントロールする役割を担います。

協会発表

2 セッション（1 セッション 150 分）
TC 協会が実施している学術研究・産学協同の取り組みや、標準規格策定の取り組みについて、各ワーキンググループが成果の発表を行います。ワーキンググループ活動は途中経過の段階にあるため、参加者の皆さんとのディスカッションを通じて、今後の活動に生かしていきます。

事例・研究発表

10 セッション（1 セッション 60 分）
TC 分野または関連分野の業務に携わる方々や、研究をされている方々による、事例・研究発表です。

TC 関連商品紹介

11 セッション（1 セッション 60 分）
TC 関連商品紹介に参加を申し込んだ企業により、使用説明の制作に役立つソリューションやツールを紹介します。

東京開催 プログラム

◉部屋割りは、当日ガイドマップでご案内します。
このプログラムは当日もご持参ください。
◉申し込み方法は、48 ページをご覧ください。

8月27日［月］

start ➔ 10:30 — finish ➔ 12:00

TC 協会 創設 20 周年 記念イベント

◇ 使用説明の新しい国際規格 ISO/IEC 82079-1:2012（別途申し込み要）

展示会

8月28日［火］

start ➔ 10:00 — finish ➔ 12:30

start ➔ 12:45 — finish ➔ 13:30

基調パネルディスカッション＋日本マニュアルコンテスト表彰式

［基調パネルディスカッション］
ユーザエクスペリエンスとは

［表彰式］
日本マニュアルコンテスト2012 表彰式

特別セッション

特 01 テクニカルライターのためのHTML5超入門
～ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識～

特 02 英文ライティング101
～初級ライティングとチェックのポイント～

特 03 イラストで伝えるおもてなし
～効果的なテクニカルイラストを生み出すためのアプローチ～

展示会 ◉展示会は10:00 ➔17:00

8月29日［水］

start ➔ 10:00 — finish ➔ 11:00

start ➔ 11:30 — finish ➔ 12:30

パネルディスカッション

パ 04 『使ってうれしい』を届けよう！
～スマートフォン/タブレット端末向けコンテンツ制作現場より～

パ 05 TC×IA
～ IA思考の情報設計プロセスを考える～

パ 06 シンプリファイドジャパニーズ 2
～翻訳しやすい効果的な日本語を書く～

協会発表

協 01 トピック指向ライターの育成を考える

発表 事例＋研究

発 05 IT取扱説明書制作システム
～執筆から翻訳、版下PDF作成まで～

発 06 制作工程改革が決め手
～ユーザビリティ向上とコスト削減を両立する～

発 07 非英語圏地域での英文TW養成
～英文TWの採用と教育、現実と未来～

発 08 テクニカルコミュニケーターは専門家か？

商品紹介

商 05 MadCap Flare のご紹介
～シングルソースで印刷文書・ヘルプ・ePub作成～

商 06 FrameMaker関連情報発信第2弾：FrameMakerとRoboHelpの最新情報

商 07 テクニカル・コミュニケーション・スイート最新版を利用して生産性を向上

特別セッション

特 05 要素デザインの勘所
～ディテールから捉える紙マニュアルのUX ～

特 06 リライトビフォーアフター

展示会 ◉展示会は10:00 ➔16:00

パ=パネルディスカッション 協=協会発表 発=事例・研究発表 商=商品紹介 特=特別セッション

13:00 — 17:00

◇国際TC検定試験予告
◇スマホ・タブレット端末時代のマニュアル制作環境はどうなる！？（別途申し込み要）

◉展示会は12:00 ➔17:00

14:00 — 15:00 — 15:30 — 16:30

パネルディスカッション

- パ 01 ユーザーのわくわくを引き出す！ ～現場から学ぶUX向上のヒント～
- パ 02 英文マニュアルを評価する ～評価のノウハウを身につけ、実務に活用する～
- パ 03 萌えるマニュアルへの挑戦！ ～ライトノベルに学ぶ新しいマニュアル制作～

発表 事例＋研究

- 発 01 決着！？画面校正 VS 紙面校正 ～画面校正効率化に向けた実証実験～
- 発 02 Global English Writing®のご紹介 ～簡潔な英文による機械翻訳の実現の事例～
- 発 03 DITA事例から語るTCの未来 ～ DITAとインテリジェントコンテンツ戦略～
- 発 04 ら抜き言葉の考察する ～あなたは「食べれる」派？「食べられる」派？～

商品紹介

- 商 01 Author-itのご紹介 ～トピック指向文書作成・管理・出力の新製品～
- 商 02 統合情報管理システム - GRIPS
- 商 03 “ロングテール”言語 ～新興国の希少言語への対応戦略～
- 商 04 ProofChecker PROとpdfToolboxのご紹介 ～ 2種のツールで効率よく正確なデータ作成～

特別セッション

- 特 04 HTML5で作るマニュアルアプリケーション ～ iPad対応マニュアルアプリケーションの実践から、その可能性を知る～

展示会

◉展示会は10:00 ➔17:00

14:00 — 15:00 — 15:30 — 16:30

パネルディスカッション

- パ 07 3DとTCのおいしい関係
- パ 08 DITA ／ CMS国内導入事例
- パ 09 TCカフェ 2012 ～ TC教育を本音で語ろう～
- パ 10 新しい翻訳のかたちを考える ～機械翻訳を使った仕事のやり方とは～

協会発表

- 協 02 TC専門課程認定制度について ～ TC専門課程認定事業の創設と実施方法～

発表 事例＋研究

- 発 09 日本語提題表現の書き換え規則とその評価
- 発 10 テクニカルコミュニケーションに役立つデジタル・ドキュメント技術動向 ～文書の作成、管理、配布、アーカイブ～

商品紹介

- 商 08 多言語ドキュメント作成のスピードアップ、コスト削減 ～部品（モジュール）単位での編集による取扱説明書／整備解説書の製作効率化事例～
- 商 09 DTPスキルをWebスキルに移行しよう！ ～ Adobe Creative Suite 6の活かし方～
- 商 10 和文校正支援の定番ツール！ ～ InDesign/AcrobatでJust Right!をフル活用～
- 商 11 軽量3DデータXVLで効率的にイラスト作成 ～ 3Dデータから高品質イラスト作成、大幅なコスト削減を実現～

特別セッション

- 特 07 書いてるばかりじゃ、ツマラナイ！　プレゼンスキルを身につけよう！
- 特 08 UXデザイン方法について

展示会

◉展示会は10:00 ➔16:00

東京開催 テーマ別ガイド

		8月28日（火）	8月29日（水）
基調パネルディスカッション		ユーザエクスペリエンスとは	
パネルディスカッション	ユーザエクスペリエンス	パネル01 ユーザーのわくわくを引き出す！ ～現場から学ぶUX向上のヒント～	
	企画立案	パネル03 萌えるマニュアルへの挑戦！ ～ライトノベルに学ぶ新しいマニュアル制作～	パネル05 TC×IA ～IA思考の情報設計プロセスを考える～
	ライティング	パネル02 英文マニュアルを評価する ～評価のノウハウを身につけ、実務に活用する～	パネル06 シンプリファイドジャパニーズ2 ～翻訳しやすい効果的な日本語を書く～ パネル08 DITA／CMS 国内導入事例
	教育		パネル09 TCカフェ2012 ～TC教育を本音で語ろう～
	翻訳		パネル10 新しい翻訳のかたちを考える ～機械翻訳を使った仕事のやり方とは～
	基盤技術		パネル04 『使ってうれしい』を届けよう！ ～スマートフォン／タブレット端末向けコンテンツ制作現場より～ パネル07 3DとTCのおいしい関係
特別セッション	ユーザエクスペリエンス		特別セ08 UXデザイン方法について
	ビジュアルデザイン		特別セ05 要素デザインの勘所 ～ディテールから捉える紙マニュアルのUX～
	ライティング	特別セ01 テクニカルライターのためのHTML5超入門 ～ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識～ 特別セ02 英文ライティング101 ～初級ライティングとチェックのポイント～	特別セ06 リライトビフォーアフター
	基盤技術	特別セ03 イラストで伝えるおもてなし ～効果的なテクニカルイラストを生み出すためのアプローチ～ 特別セ04 HTML5で作るマニュアルアプリケーション ～iPad対応マニュアルアプリケーションの実践から、その可能性を知る～	特別セ07 書いてるばかりじゃ、ツマラナイ！ プレゼンスキルを身につけよう！

会場のご案内

会場
工学院大学 新宿キャンパス

東京都新宿区西新宿 1-24-2
TEL：03-3342-1211

JR 新宿駅から徒歩 5 分

ユーザエクスペリエンス
ビジュアルデザイン

ユーザエクスペリエンスとは

■ディスカッションの趣旨

近年よく耳にする「ユーザエクスペリエンス（＝ UX)」というキーワード。
Web 業界やサービス業界で使われることが多いが、製品とユーザーをつなぐ、私たちテクニカルコミュニケーターにも、UX を理解することが求められるのではないか。
このパネルディスカッションに登壇するのは、長年 UX を実践してきた、有識者や実務者などのエキスパートたち。
登壇者が紹介する UX デザインの事例をもとに、「UX とは何か」、「なぜ UX が必要か」、「どのように感動体験を生み出すか」などについて考える。
この内容は京都での基調パネルディスカッションに引き継がれていく。

■ディスカッションのポイント

・UX とは何か
・ユーザビリティから UX へ
・UX の必要性
・どのように UX を向上させるか
・テクニカルコミュニケーターは、UX 向上にどのように関われるか

■ディスカッションの流れ

1. UX についての解説
2. 各パネリストによる、UX デザインの事例紹介
3. コーディネーター、パネリストによるディスカッション

コーディネーター

小松原　明哲

早稲田大学

■プロフィール

早稲田大学理工学部工業経営学科卒、同大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。日本人間工学会認定人間工学専門家。
ヒューマンエラー／ヒューマンファクタにかかわるリスクマネジメントや、製品の使いやすさ、製品安全、製品・商品開発マネジメント、人間行動モデルに関する研究を、人間生活工学の立場から行う。

パネリスト

安藤　昌也

千葉工業大学

■プロフィール

早稲田大学 政治経済学部 経済学科卒。総合研究大学院大学 文化科学研究科 メディア社会文化専攻修了。博士（学術）。
ユーザエクスペリエンス（UX）および人間中心設計の研究が専門。十数年来のコンサルタントの経験を活かし、企業などとの共同研究で、UX デザインやサービスデザインの方法論やアプローチの実践にも取り組んでいる。HCD-Net 理事。
HCD-Net 認定人間中心設計専門家。専門社会調査士。

洪　恒夫

（株）丹青社

■プロフィール

武蔵野美術大学造形学部建築学科卒。株式会社丹青社入社。
以降、博物館、展示施設、博覧会、アミューズメントスペース等、空間を介した様々なコミュニケーション施設のプランニング、デザイン、プロデュースを行う。（2002 年より）東京大学総合研究博物館の教員も兼務し、「学術を翻訳」し社会へ伝える、“ミュゼオグラフィー”の実践も併せて推進。

小金　宏行

（株）日立製作所

■プロフィール

東京造形大学造形学部デザイン学科 ID 専攻卒。
株式会社日立製作所デザイン研究所入社。
家電製品、情報機器、公共機器などのプロダクトデザインから、ユニバーサルデザイン、ユーザビリティデザインなどを幅広く担当。
現在、情報通信部門で製品・サービス開発における、ユーザエクスペリエンス向上活動を推進。

企画担当者

栗谷　裕哉
（株）日立製作所

黒須　学
インフォトランス（株）

松野　裕司
（株）クレステック

パネルディスカッション

ユーザエクスペリエンス
デザイン

01 ユーザーのわくわくを引き出す！

現場から学ぶ UX 向上のヒント

コーディネーター

小野　聖志
ソニー（株）

パネリスト

サイトウ・アキヒロ
立命館大学

田邉　明人
（株）ベネッセコーポレーション

山寺　仁
（株）日立製作所

企画担当者

久保寺　佳奈
ソニー（株）

栗谷　裕哉
（株）日立製作所

■ディスカッションの趣旨

「UX」とは何かをなんとなく理解していても、いざ実践しようとすると「何から手をつけていいかわからない」、「制約が多くてうまく取り組めない」といった悩みを抱える人も少なくない。そこでこのパネルディスカッションでは、UX に取り組んでいる各社の担当者や研究者が現場での実践や課題を取り上げ、UX 向上のポイントについて語る。さらに、UX 向上においてテクニカルコミュニケーターが今、そして未来に果たすべき役割について議論する。

■ディスカッションのポイント

- UX とは何か？
- UX 向上のためのポイントとは何か？
- テクニカルコミュニケーターとしてできることは何か？

■ディスカッションの流れ

1. UX 向上を目指して行ってきた取り組みの紹介
2. UX 向上のポイントとは何か？
3. UX 向上におけるテクニカルコミュニケーターの役割とは何か？
4. 今後テクニカルコミュニケーターが目指すべき方向性とは？

02 英文マニュアルを評価する

評価のノウハウを身につけ、実務に活用する

コーディネーター

中村　哲三
YAMAGATA INTECH（株）

パネリスト

遠藤　幸夫
ヤマハ（株）

小室　美由紀
ブラザー工業（株）

ジョージ松尾
NES 英文翻訳者／ JAT（日本翻訳者協会）スタイルガイド制作メンバー

企画担当者

深井　徳朗
アヴァシス（株）

■ディスカッションの趣旨

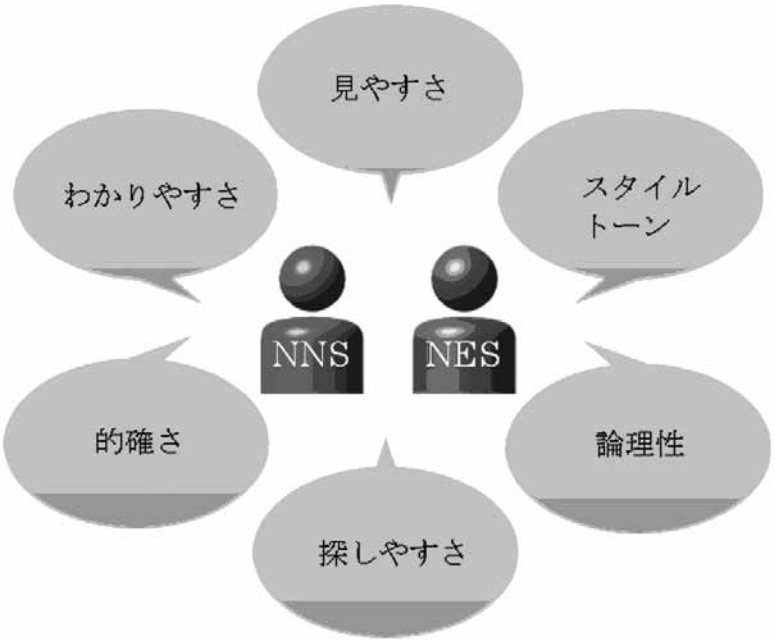
日本発英文マニュアルに対する海外からの評価は、一般的に辛い傾向にある。しかも、その評価は問題点の具体的な指摘を含まないものが多い。結果として、マニュアル担当部門／制作会社は、マニュアルに対する批評を耳にしながらも、問題点が可視化できず戸惑ってしまう。このセッションでは、英文マニュアルの具体的な問題点を洗い出しながら、その問題点を体系的に可視化し、それぞれの問題に対する適切な対応を考える。具体的には、制作管理者（日本メーカー側）とネイティブライター、それぞれの視点から検討し、適切な解決策を例示していく。

■ディスカッションのポイント

- 思考や文化における日本語と英語の違い
- ライティング／翻訳上で注意すべき点
- メーカー制作現場（管理者）から見た問題点　そして、NES（英語ネイティブ）翻訳者／ NNS（日本人）から見た問題点
- 制作現場と NES の見解や対応は一致するか？
- 日本人（制作サイド）がチェックすべきポイント　どういったところをチェックするか
- 具体的なガイドラインは可能か？

■ディスカッションの流れ

1. ライティング／翻訳上で注意すべき前提条件を紹介する
2. 基本的なポイントの策定とそのポイントを基にしたチェックリスト作成活動を紹介する
3. 英文マニュアルの問題点を分析する　英語と日本語の違いからくるもの、ユーザビリティ（わかりやすさ）に関するもの
4. 個々の問題点とその対策、改善事例を紹介するー NNS と NES の視点からの検討
   日本人（制作サイド）がチェックすべきポイントは？
5. 評価者に必要なスキルを検討する
6. 具体的なチェックリストを検討する　（会場参加者も交えて討議する）



パネルディスカッション

企画立案
ライティング

03 萌えるマニュアルへの挑戦！

ライトノベルに学ぶ新しいマニュアル制作

コーディネーター

平湯　あつし
（株）カイ

パネリスト

くしまちみなと
フリーランス

新城　カズマ
（有）エルスウェア

難波江　宏隆
（株）講談社

企画担当者

関　和佳代
（株）パセイジ

山田　智仁
（株）日立製作所

吉田　正志
（株）富士ゼロックスアドバンストテクノロジー

■ディスカッションの趣旨

出版不況が続く中、ライトノベルは着実に売り上げを伸ばし、新しいレーベルが続々と誕生している。マニュアルも、ライトノベルも、文章とイラストで構成されているにもかかわらず、ライトノベルはワクワク感を持って読者に受け入れられ、マニュアルは読みたくないものの代名詞にされている。

本セッションでは、ライトノベルが受け入れられている要素を分析し、その要素をマニュアルに取り入れることができるかを討議し、マニュアル制作の新たな可能性を考えたい。

■ディスカッションのポイント

- ライトノベルが受け入れられている理由
- ライトノベルに求められる要素とマニュアルに求められる要素の違い
- ライトノベルの要素をマニュアルに取り入れられるか
- ライトノベル風「萌えマニュアル」は作れるか

■ディスカッションの流れ

1. ライトノベルとはどういうものか。ストーリーとキャラクターはどのように作られているか紹介。
2. ライトノベルの文章とイラストは、どのように編集されているか紹介。
3. ライトノベルにおける文章の書き方の常識とはどのようなものか紹介。
4. マニュアルとライトノベルの違いを、紹介された内容をもとに検証。
5.「萌えマニュアル」の実現可能性についてディスカッション。

© 竹井 10 日・CUTEG/ 講談社
Copyright© Futabasha Publishers Ltd. All Right Reserved
©HIFUMI SHOBO

04 『使ってうれしい』を届けよう！

スマートフォン / タブレット端末向けコンテンツ制作現場より

コーディネーター

松浦　梨絵
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

パネリスト

須井　教年
（株）日立製作所

谷口　郁馬
グローバルウェーブ（株）

平井　弘実
お茶の水女子大学

企画担当者

小川　維一
（株）シイエム・シイ

原　小百合
（株）富士通ラーニングメディア

■ディスカッションの趣旨

スマートフォンやタブレット端末の普及が急激に進むにつれ、使用説明の分野でも、それらの端末での閲覧に適した形態を意識する必要が出てきている。
しかし、現場からは「誰に向けて作れば効果的か」「どう作ればいいのか」と悩む声も聞こえている。
このパネルディスカッションでは、スマートフォン／タブレット端末対応サイト、EPUB 形式マニュアル、マニュアル閲覧アプリなどの事例を中心に、従来の開発との違い、今後の展望などを議論する。

■ディスカッションのポイント

2011 年のパネルディスカッション 02 では、タブレット端末での情報提供に関する概念的な部分を議論した。今回は制作現場に焦点を絞り、事例を中心に実際を明らかにする。
各パネリストには企画の背景や目的、苦労した点、ユーザーの反応や今後の展望などを話していただくことで、スマートフォン / タブレット端末向けのコンテンツを検討している人に向けたヒントを提供したい。

■ディスカッションの流れ

1. 今、マニュアルはどのように見るものなのか？ - スマートフォン／タブレット端末での展開の必要性
2. 制作現場の悩み - 導入に踏み出せないのはなぜか？
3. 各プロジェクトでの取り組み事例紹介
4. ディスカッション - ユーザーが「うれしい」と感じる見せ方とは

パネルディスカッション

企画立案
デザイン

05 TC × IA

IA 思考の情報設計プロセスを考える

コーディネーター

徳田　直樹
（株）パセイジ

パネリスト

川島　祐介
ソニー（株）

岸本くみ子
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

坂本　貴史
ネットイヤーグループ（株）

企画担当者

関　和佳代
（株）パセイジ

西本　徹太
アヴァシス（株）

深井　徳朗
アヴァシス（株）

■ディスカッションの趣旨

増え続ける使用説明情報と提供形態の多様化、ユーザー行動様式の変化が著しい昨今、情報設計の重要性が高まってきている。しかしながら、我々テクニカルコミュニケーターは、その価値やプロセスを理解し、実現するためのスキルを身に付けているだろうか。

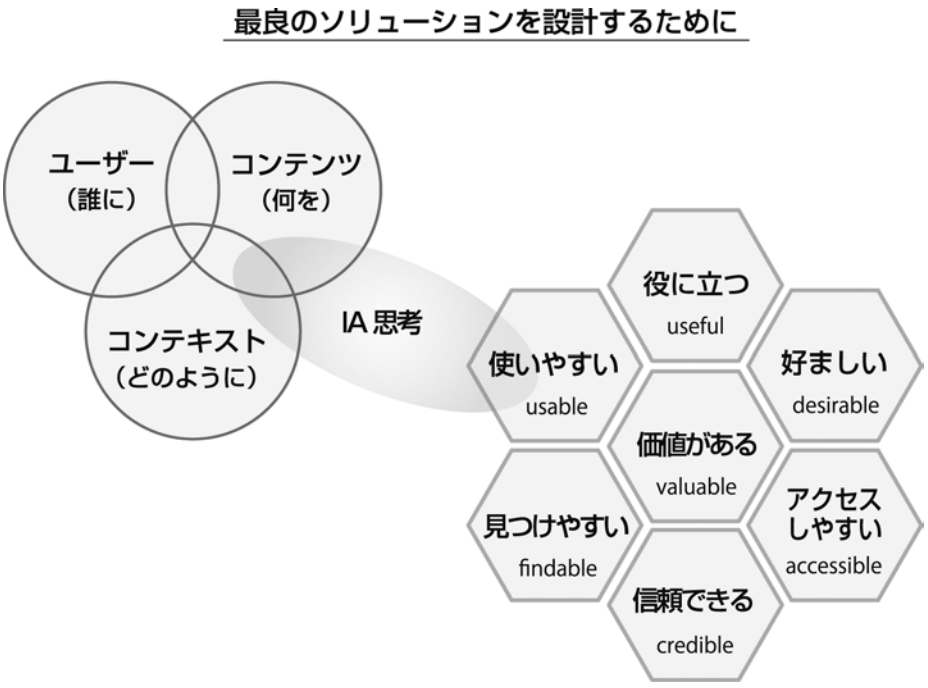
Web 業界では IA（情報アーキテクチャ）という言葉が定着し、情報設計手法の標準化や体系化が積極的に進められている。その IA 思考をヒントに、TC における IA を議論し、新たな情報設計の形を探りたい。

■ディスカッションのポイント

- IA とはなにか
- TC における IA の価値と必要性
- なぜ TC の制作プロセスに IA が定着しないのか（課題を深掘りする）
- TC における IA を体系化していくには

■ディスカッションの流れ

1. IA の考え方、目的、プロセスを整理する。
2. IA を実現するために必要なこと（工程や体制の見直しなど）
3. TC における IA の活用（事例紹介）
4. IA 思考を実務に結びつけていくには



パネルディスカッション

ライティング
ローカリゼーション

06 シンプリファイドジャパニーズ 2

翻訳しやすい効果的な日本語を書く

コーディネーター

中村　哲三
YAMAGATA INTECH（株）

パネリスト

井佐原　均
豊橋技術科学大学

菊池　茂
（株）高電社

百武　正人
東芝テック画像情報システム（株）

企画担当者

深井　徳朗
アヴァシス（株）

森口　功造
（株）川村インターナショナル

■ディスカッションの趣旨

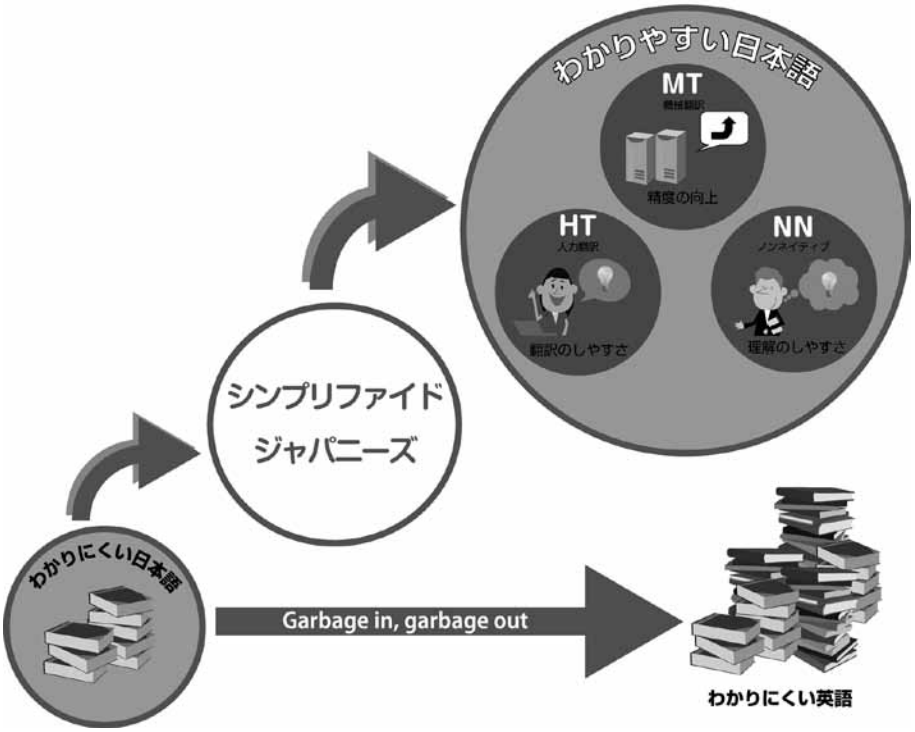
昨年度に引き続き、誤解されることなく、スムーズに英語やそのほかの言語に翻訳／ライティングできる日本文の書き方を検討する。昨年度は、まず取りかかりとして、翻訳しやすい日本語についての一般的な考え方を検討した。今回は、やさしい日本語への取り組みや、品質の急速な向上により本格的な運用が期待される機械翻訳にも焦点を当て、現場での具体的な課題も紹介しながらシンプリファイドジャパニーズの可能性を検討する。

■ディスカッションのポイント

開発者の書く文書や、役所のホームページには、わかりづらい日本語が頻出する。「翻訳のしやすさ」という視点に立って、現場の翻訳担当者が頻繁に遭遇する日本語の問題をどう解決するかがキーになる。人間にとって、あるいは機械翻訳エンジンにとってのわかりやすさとは何なのか。どうすれば実現できるのか。今後の対策について、現場の取り組みを交えて考察したい。

■ディスカッションの流れ

1. シンプリファイドジャパニーズ（SJ）の定義
2. 現場担当者が抱える課題は何か
3. 日本語のわかりやすさ - 誰にとって、何にとってのわかりやすさか
4. 機械翻訳しやすい日本語とは
5. 具体的な解決策や、さまざまな取り組みについて



パネルディスカッション

3DCAD
イラスト

07 3D と TC のおいしい関係

コーディネーター

川内　カツシ
（株）テクノアート

パネリスト

青山　一生
愛知工業大学非常勤講師
（株）アコテック

大谷　清彦
日立建機（株）

鳥谷　浩志
ラティス・テクノロジー（株）

企画担当者

金本　誠
（株）テックコミュニケーションズ

企画協力

大西　茂巳
（株）テックコミュニケーションズ

小谷　孝行
島津エンジニアリング（株）

■ディスカッションの趣旨

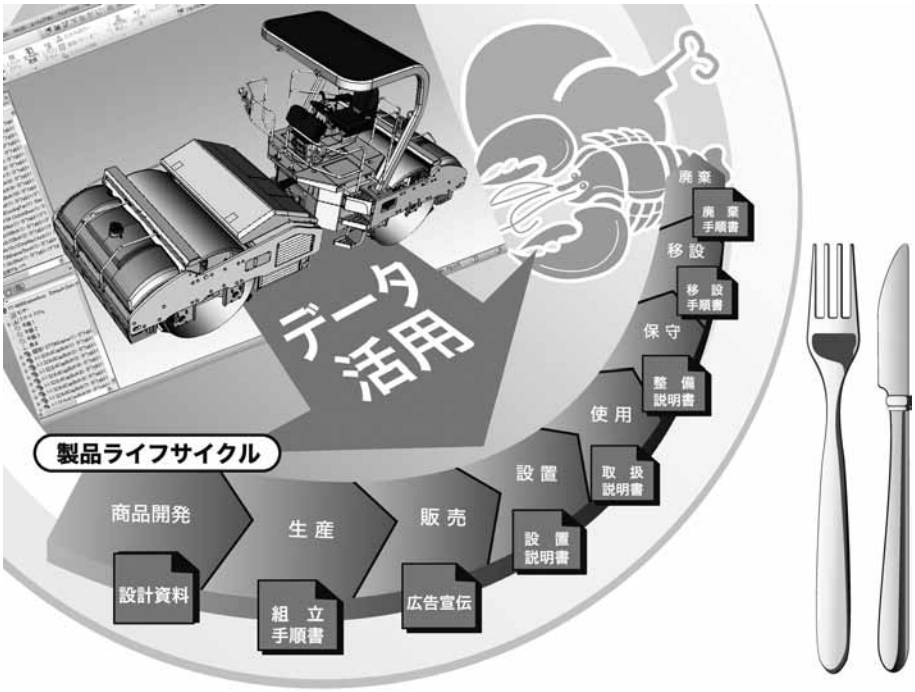
製品開発プロセスでは 3DCAD を活用する機構設計が主流になり、現物の試作サンプルが無い状態で、生産資料や製品マニュアルの作成に取り組んでいる。テクニカルコミュニケーターも 3DCAD を前提とした制作フローに順応することが求められている。また、マニュアル自体もビジュアル（画像や映像など）を活用し、閲覧環境の変化（PC やタブレット）にも対応する必要がある。そのような中、3D データのマニュアルへの活用は、どこまで進んでいるのだろうか？

■ディスカッションのポイント

- 製品ライフサイクルにおける、開発・生産・販売・使用・保守・廃棄の様々なシーンでの活用
- イラストやアニメーションのマルチユース
- 製品リリースサイクルの短縮
- ドキュメンテーションの効率化

■ディスカッションの流れ

実際に 3D データを活用してマニュアルなどのドキュメントを制作している事例を紹介する。メリットとして、試作前から着手可能になることでのリードタイム短縮や、写真では撮影不可能なアングルの確認ができる点などがあるが、逆にイラストの品質低下の原因ともなっている事実もある。そのような状況で、３D にあった表現とは何か？
また、３D データの活用により、効率化や改善された点や、逆に苦労した点なども紹介したい。



パネルディスカッション

DITA、トピックライティング
CMS

08 DITA ／ CMS 国内導入事例

東京開催 パネルディスカッション

コーディネーター

小川　義博
（株）日立製作所

パネリスト

鈴木　和明
日本電機（株）

針ヶ谷　ヨシブミ
横河電機（株）

村尾　昌浩
日本オラクル（株）

企画担当者

小林　久美子

堂守　一也
（株）日立製作所

森山　武
（株）リコー

企画協力

畝本　あい子
（株）島津製作所

■ディスカッションの趣旨

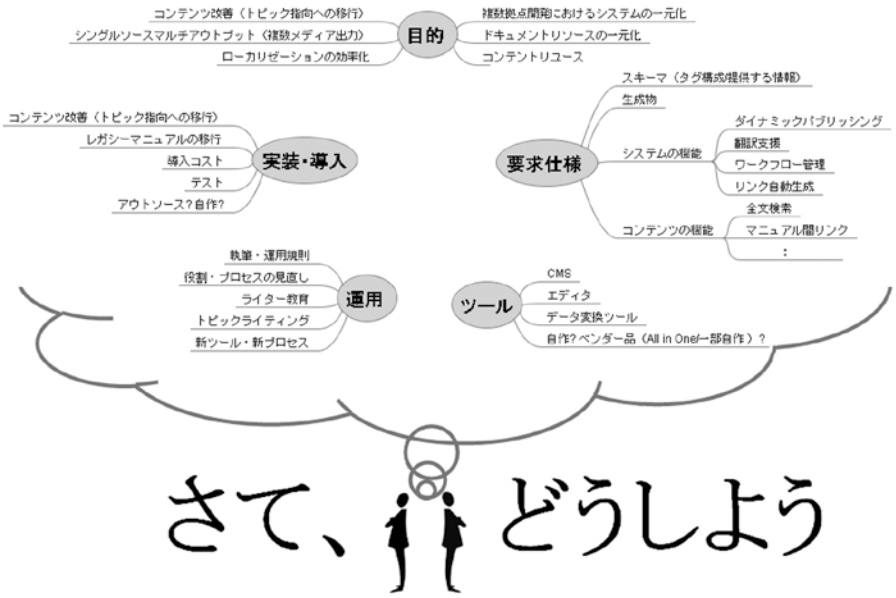
DITA ＋ CMS の導入によって得られる効果はたくさんあるが、導入するだけですべての効果を期待できるわけではない。このほか様々な理由で、いざ導入となると敷居が高いのが現状ではないだろうか。本パネルディスカッションでは、国内企業の DITA 導入事例をベースに利点、リアルな悩みを聴講者と共有し、DITA ／ CMS の導入を検討している制作者への一助とする。

■ディスカッションのポイント

- 導入目的
- 内容モデルの考え方
- ライターの教育
- コンテンツ形式の変化
- マニュアル開発手法の変化

■ディスカッションの流れ

1. DITA とは、CMS とは（一般的な使い方 DITA と組み合わせた時の使い方）
2. 国内導入事例紹介：（横河電機殿、日本電気殿）
3. 導入にあたっての苦労点



パネルディスカッション

教育

09 TC カフェ 2012

TC 教育を本音で語ろう

コーディネーター

徳田　直樹
（株）パセイジ

パネリスト

塩原　俊幸
アヴァシス（株）

島田　英昭
信州大学

鈴木　裕一郎
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

企画担当者

三波　千穂美
筑波大学

下拂　伸一
アベイズム（株）

関　和佳代
（株）パセイジ

■ディスカッションの趣旨

オーディエンス参加型セッションの第 3 弾 TC カフェ 2012 では、TC 業界の長年の課題である「TC 教育」について真正面から語り合いたい。昨年の「できる TC の極意をつかめ」では、自己研鑽が主題のセッションであったが、意外にも TC 教育や TC 検定の話題で盛り上がった。ならば今年は教育をテーマに、とことん語り尽くしたい。部下の教育に日夜頭を抱えている方だけでなく、教育成果を上げた経験のある方、教育を受ける側の若い世代も大歓迎。本音で語り合おう。

■ディスカッションのポイント

- 教育プログラム、OJT といえば聞こえがいいが、ぶっちゃけうまくいっているのか？
- 仕事を「独習」できる人、できない人。
- 新人に大事なこと、中堅に大事なこと、ベテランに大事なこと。
- 教育係に向く人、向かない人。
- なぜ教育だけは、どうやってもなかなか成果が上がらないのか？

■ディスカッションの流れ

本セッションは、いわゆるパネルディスカッションの形はとらず、パネリストと会場の皆さまとのオープンな語らいで進行する。わが社の教育、私の教育。わが社の失敗、私の失敗（もちろん成功も）。教育係の育成。「人員」を「人材」に変えるには、等々。展開は予測不能だが、話題は尽きないはず。また、昨年に引き続き、TC カフェ専用に Twitter のハッシュタグ「#TCcafe」を設定。当日も会場の内外から Twitter での参加が可能だ。

10 新しい翻訳のかたちを考える

機械翻訳を使った仕事のやり方とは

コーディネーター

深井　徳朗
アヴァシス（株）

パネリスト

内山　将夫
（独）情報通信研究機構

相良　美織
（株）バオバブ

鈴木　博和
（株）東芝

山田　薫
シスコシステムズ（合）

企画担当者

中村　哲三
YAMAGATA INTECH（株）

森口　功造
（株）川村インターナショナル

山本　勇
（株）石田大成社

■ディスカッションの趣旨

機械翻訳の精度が向上し、海外では機械翻訳を活用したビジネススタイルが定着している。日本でも、クラウド上で機械翻訳と人手翻訳を活用した翻訳スタイルが生まれるなど、新しい動きが出てきている。しかし、多くの翻訳現場では、機械翻訳に興味はあるが、何を目的に、どのように取り組めばよいのか戸惑っているのが実情であろう。最新情報を整理し、すでに機械翻訳を導入した実例を紹介しながら、我々は何を考えて、どのように取り組んでいくべきかを考える。

■ディスカッションのポイント

- 今の機械翻訳は何が「できる」のか？「できない」のか？
- 現在ある機械翻訳の「できる」をどのように応用するか。
- 機械翻訳を使った新規ビジネスへの取り組み。
- 機械翻訳を使う上での注意点。「できない」ことへの対処。
- 翻訳ビジネスの将来像。機械翻訳の目指すところ。

■ディスカッションの流れ

1. 最新の機械翻訳事情
2. 機械翻訳を活用した実例紹介
3. 機械翻訳を使う上での留意点、特長
4. 機械翻訳の将来像

特別セッション

ライティング
企画立案

01 テクニカルライターのための HTML5 超入門

ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識

講師

黒田　聡
（株）情報システムエンジニアリング
矢野　りん
バイドゥ（株）

■プロフィール
北海道足寄町生まれ。デザイナー／ライター。「日本 Android の会」会員。情報処理学会デジタルドキュメント研究会メンバー。

企画担当者

吉川　明
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

形式

講義

定員

50 名

■講義の趣旨

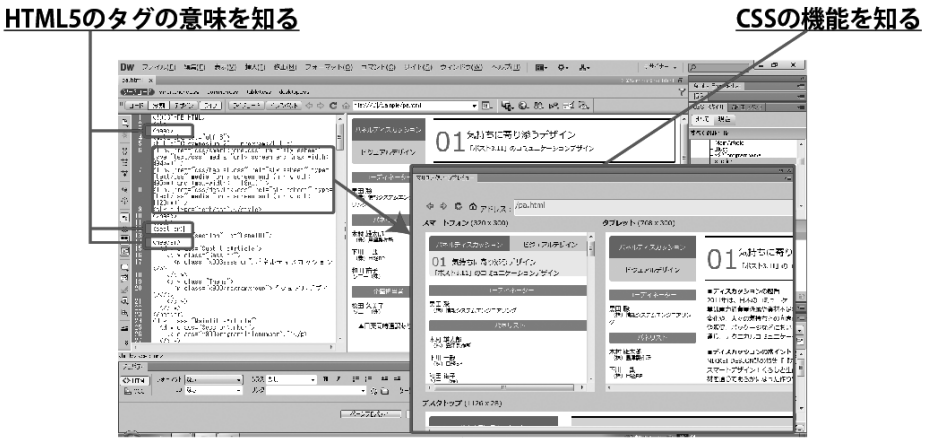
使用説明を提供するメディアやデバイスが多様化するこれからの時代に、制作基盤として注目を集めているのが HTML5 である。使用説明の企画をするに際しても原稿執筆するに際しても、紙媒体の場合に DTP の概念や基本を知っている必要があるのと同様に、これからは HTML5 を知っておく必要がある。難解になりがちなこのテーマを、直接 HTML コーディングをすることは必ずしも想定しない方々を対象に、ソーシャル＆マルチデバイス時代の新常識として解説する。

■講義のポイント

基本概念の解説は、企画工程で必要な水準で行う。HTML5 には様々な機能要素があるが、本講義の対象を、ライターが原稿を書くときに必要となる範囲に絞り込み、その画面表示イメージを確認しつつ学習できるよう解説する。また、注目され始めているソーシャルメディアにむけたテキストベースのコンテンツ執筆の可能性と、その実現に必要な HTML5 の知識にもフォーカスする。なお、本セッションでは機能開発やアプリ開発に関する技術は取り上げない。これらに興味がある方は特別セッション 04「HTML5 で作るマニュアルアプリケーション」に参加していただきたい。

■講義の流れ

1. マークアップ技術は古くて新しい技術だ
2. XML、HTML、CSS の役割を知ろう
3. ソーシャル＆マルチデバイス時代に欠かせない新技術 HTML5 を学ぶ
4. 事例で学ぶソーシャルネットワークの俎上に乗るコンテンツ作りと HTML5
5. コンテンツ制作者の役割、ワークフローはこう変わる！



WYSIWYG編集を実現するDreamweaver CS6を活用して、分かりやすく解説

02 英文ライティング 101

初級ライティングとチェックのポイント

講師

中村　哲三
YAMAGATA INTECH（株）

■プロフィール
ユーザビリティーや認知言語学など学際的な知識を含めた独自の視点から、英文や日本文のライティングを考えてきたテクニカルコミュニケーター。東洋大学非常勤講師。

企画担当者

小川　維一
（株）シイエム・シイ

形式

講義、ワークショップ（実習）

定員

50 名

■講義の趣旨

日本人が英文ライティングや英文チェックを行う際に陥りやすい問題点を体系的に確認しながら、マニュアル制作のための英文ライティング／チェックの基礎を修得していく。また、学校では習わなかった句読法や、数字や省略形などの表記法を身につけていく。OJT ではカバーしきれない全般的な要素をこのセッションでカバーすることにより、現場での即戦力を効果的に養成する。

■講義のポイント

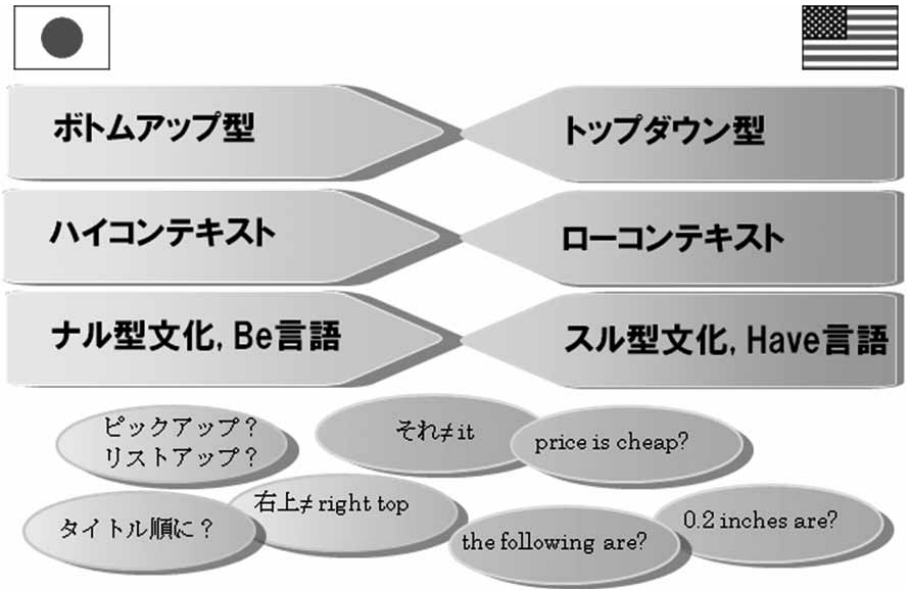
最初にこれだけは覚えておきたい英文ライティング / チェックの基礎知識：

- 日本人が間違えやすい点（日本と異なる発想、和製英語、技術用語、冠詞と数）
- 日本語に引きずられた表現、品詞の相性への配慮（動詞＋名詞、形容詞＋名詞）
- ウェブを活用した効果的なライティング／チェック
- 句読法の誤った使い方、数字の書き分け（アラビア数字）、範囲と単位など

■講義の流れ

テキストに「英文テクニカルライティング 70 の鉄則」（（株）日経 BP）を使用する。

1. 概念、思考、認知などさまざまな面での英語と日本語の違いを確認する
2. 日常生活のなかに溢れた和製英語や日本語に引きずられた誤った表現を回避する
3. ウェブを活用した効果的なライティング／チェック法を身につける（ワークショップ）
4. 句読法や数字（範囲、単位、表記）などの表記法を身につける



この特別セッションに参加するためには、テキスト「英文テクニカルライティング 70 の鉄則」（株）日経 BP　2,100 円（消費税込）が必要です。すでにテキストをお持ちの方、別途、書店などで購入される方は、当日必ずご持参ください。

特別セッション

イラスト

03 イラストで伝えるおもてなし

効果的なテクニカルイラストを生み出すためのアプローチ

講師

久保　拓也
（株）情報システムエンジニアリング

■プロフィール
2002 年（株）情報システムエンジニアリング入社。
入社時からサービスマニュアル、取扱説明書をはじめとするテクニカルイラスト制作を担当する。ドキュメント制作全般に関するディレクション、多言語対応におけるテキストに依存しない表現の研究・実践なども行っている。

企画担当者

松野　裕司
（株）クレステック

形式

講義

定員

50 名

■講義の趣旨

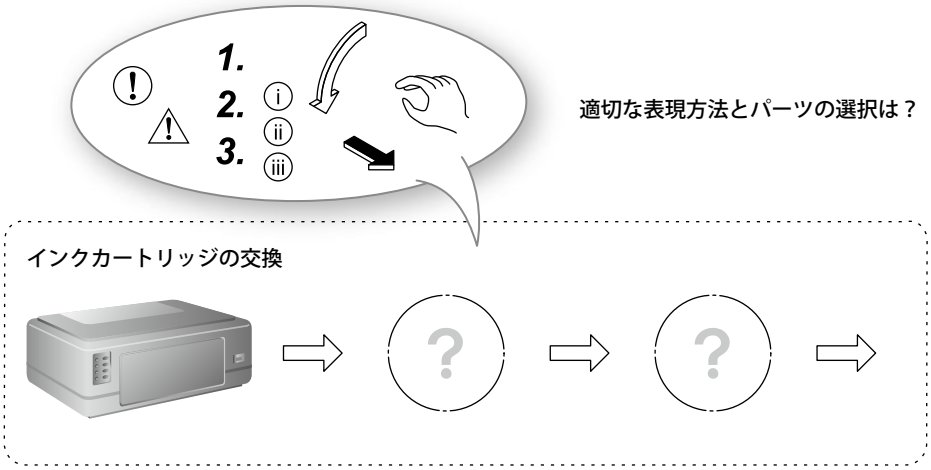
「ここのイラスト、あの○○○マニュアルの△ページを流用しておいて！」
このような会話、使用説明の制作現場で良く耳にする言葉ではないだろうか？
過去の資産とノウハウが蓄積されたことにより特定パターンでの対応が増えた結果、作成するテクニカルイラストそのものへの取り組みは自然と少なくなる傾向になりつつある。
閲覧環境が大きく変化する昨今において、読み手の目に入った瞬間にその品質を直感的に判断されるテクニカルイラストは、的確な情報提供の役割を果たすとともに、読み手をもてなす作り手の思いを伝えていると言っても良いのではないだろうか。
使用説明の中で用いられるテクニカルイラストをセオリーとテクニックの両側面から見つめ直すことで、製品ユーザーへより良い情報を提供するための 1 歩を踏み出せればと考える。

■講義のポイント

テクニカルイラストは、いくつかの要素に分解することができる。それらの個々の役割、組み合わせて用いたときの役割と効果を体系化することで、最適なテクニカルイラストを作成することが可能になる。あたりまえのように用いている個々のパーツに対しても改めて目を向けてみることで、その影響力を考え直す機会にもなるだろう。
製品ユーザーの視点を基準に表現方法と描画方法を選択したうえで、それを実現するためのツールテクニックを合わせ持つことにより、効果的なテクニカルイラストが生まれる。制作現場における作業効率を考慮しながら、どの部分に力点をおくことで効果的な作業フローとアウトプットを構築できるのかを追求する。

■講義の流れ

このセッションでは、既存の使用説明で多く使われている「テクニカルイラストを含むコンテンツ」を例に、それぞれの要素が果たす役割を整理・体系化して、場面に応じた様々な表現方法へのアプローチを解説する。
また、テクニカルイラストを作成に用いる各種素材データ（写真、図面、3D CAD など）と組み合わせた制作ツール（Illustrator、Photoshop など）の活用方法を、実際のオペレーションを交えて紹介する。



※キャラクターイラストに関する内容は対象外としています。

04 HTML5 で作るマニュアルアプリケーション

iPad 対応マニュアルアプリケーションの実践から、その可能性を知る

講師

小松　健作
NTT コミュニケーションズ(株)

■プロフィール
1997 年 NTT に入社。インターネット接続サービスや IP 電話サービスの開発に従事。2006 年より現職。Web 最新技術（HTML5）の研究開発に取り組む。Google Developers Expert（HTML5）　／ Microsoft Most Valuable Professional（Internet Explorer）。

企画担当者

吉川　明
（株）日立テクニカルコミュニケーションズ

形式

講義

定員

50 名

■講義の趣旨

HTML5 の登場により、Web ブラウザでできることの範囲は大きく広がっている。従来の Web では考えられなかった機能を提供することも可能だ。これは、マニュアルの分野でも例外ではない。静的なマニュアル文書だけではなく、より機能的なアプリケーションサービスを提供することが可能となる。本セッションでは、iPad で動くサンプルをベースに、その実践法を解説する。

■講義のポイント

- HTML5 のタグを用いた文書の構造化と目次などの自動生成
- 映像音声機能を用いたマルチメディア対応
- 各種アプリケーション機能の実践（しおり機能、ハイライト機能など）
- オフライン対応により、いつでも利用可能なサービスの実現
- コミュニケーション機能を用いた利用者サポート機能

■講義の流れ

実際に iPad で動くサンプルアプリケーションを用い、その内容を説明することで実践的かつ具体的に理解可能なものとする。コードの説明は必要最低限とし、具体的に「何ができるのか？」「何に注意しなければならないのか？」を、デモを交え解説することで、具体的なイメージを習得可能とする。これにより、ディレクターやディレクション担当者などコーディングに携わらない立場の方にも取り組みやすい内容とする。

特別セッション

ビジュアルデザイン

05 要素デザインの勘所

ディテールから捉える紙マニュアルの UX

講師

鈴木　有子
ソニー（株）

■プロフィール
1982 年ソニー株式会社入社。プロダクトデザインを経て、長くパッケージデザイン業務に関わる。
2009 年より取扱情報のデザインを担当。
パッケージからマニュアルへ、そして製品へ。ユーザーが体験する流れの中で、取扱情報デザインがどうあるべきかを探求、実践している。

企画担当者

島田　能里子
ソニー（株）

形式

講義と 30 分程度のワークショップ

定員

50 名

■講義の趣旨

紙マニュアルの UX 向上を、フォント／イラスト／装飾など、構成要素のディテールのデザインから捉える。

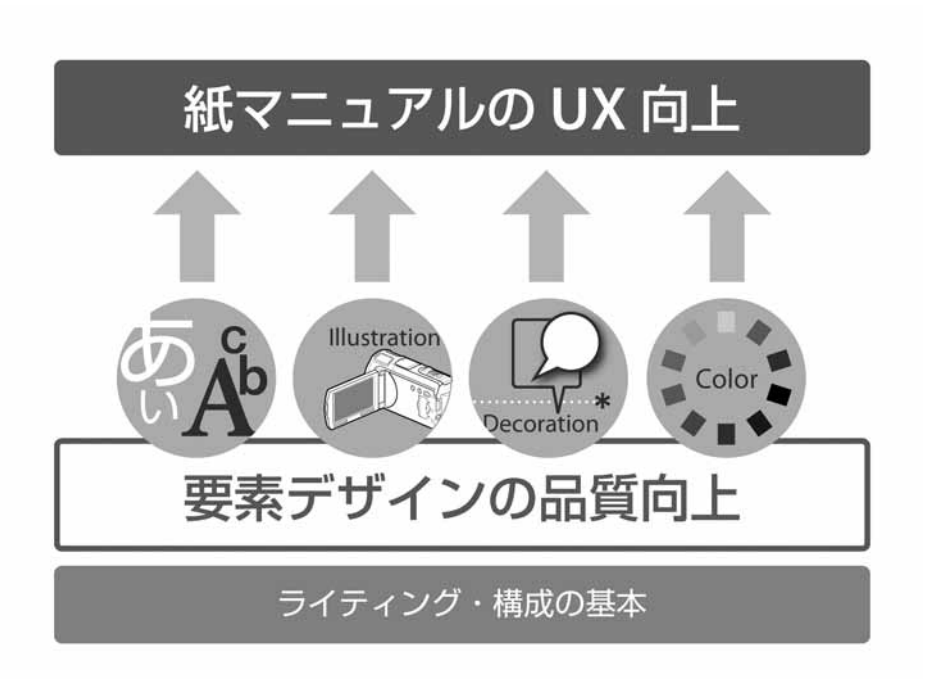
紙マニュアルの制作経験がある中堅制作者やディレクターを対象に、紙マニュアルの基本ノウハウは理解しているが、デザイン的な工夫で もっとわかりやすく見やすいマニュアルにしたいという思いに対して、実例を交えた実践的な解説を行う。

■講義のポイント

要素デザインを「文字」「イラスト」「装飾」「配色」の 4 つのテーマに分類し、ソニーの紙マニュアルでの実例を中心に、それぞれのクオリティアップをデザイン的な視点でとらえて解説する。

■講義の流れ

1. ＜イントロ＞紙マニュアルにおける UX とは　マニュアルの構成要素とは
2. ＜実例解説＞ 4 つのテーマに沿って実例を交えた講義
3. ＜ワークショップ＞講義で得た知識を生かして 30 分程度の簡単なワークショップ
4. ＜講評、質疑応答＞
5. ＜まとめ＞



06 リライトビフォーアフター

講師

清水　義孝
（株）クレステック

■プロフィール
制作会社に 20 年以上勤務。この間、常に新しいマニュアルの企画・開発に関わる。『マニュアル制作ディレクション』『トリセツのつくりかた制作実務編』（いずれも TC 協会編著）の制作に参画。企業セミナー多数。

企画担当者

石川　秀明
ヤマハ（株）

形式

講義（事例紹介を含む）

定員

50 名

■講義の内容

リライトと呼ばれる作業の幅は広い。仕様の変更に伴う加筆・修正から、全く違った設計のもとに書き直す作業まで含まれている。校正の反映レベルから、新しい使用説明の制作までが、リライトと呼ばれている。ゆえに、リライトの効果的を上げるには、リライトの目的を明確にし、リライト前の使用説明から設計思想を正確に読み取らなければならない。目的に応じて、新しい設計が必要になることもある。

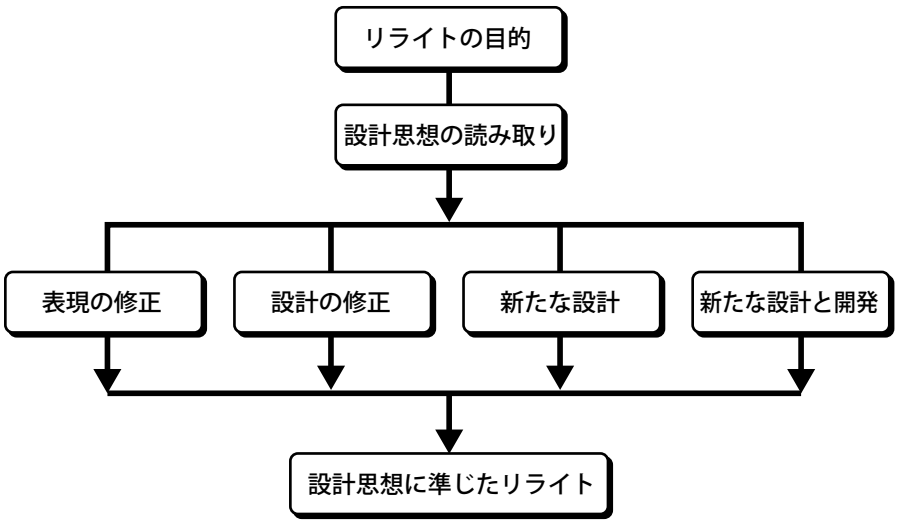
■講義のポイント

効果的なリライトを、作成を使ったビフォー／アフターによって理解してもらう。

- よりわかりやすい表現へのリライト
- ページ削減を目的にしたリライト
- 紙から電子メディアへ媒体を変更するためのリライト

■講義の流れ

リライトの作業概要を説明し、作例によるビフォー／アフターで効果を確認する。ライティング実務者はもちろん、使用説明を企画するディレクターにも役に立つセッションである。



特別セッション

プレゼンテーションスキル
話す技術

07 書いてるばかりじゃ、ツマラナイ！ プレゼンスキルを身につけよう！

講師

森口　稔
京都外国語大学

■プロフィール
米国 Southern College of Technology 修士課程で TC を専攻。学会や研究会で発表や講演の経験が多数あり、TC シンポジウムでも 1997 年から毎年連続で発表を実施している。現在は、京都外国語大学で非常勤講師として日本語を話す技術を教える。

企画担当者

三波　千穂美
筑波大学

形式

ワークショップ

定員

50 名

■講義の趣旨

「テクニカルライティング」が「テクニカルコミュニケーション」に拡張したとき、グラフィックやユーザビリティに加えて、音声によるコミュニケーションも取り込まれた。それならば、テクニカルコミュニケーターは「書く」ばかりではなく「話す」スキルも期待されてしかるべきだろう。「人前で話すのは、どうも…」と思っていても、話す機会はいつやってくるかわからない。その時に備えて、今から人前で話す技術を身につけたいと思う方に来ていただきたい。

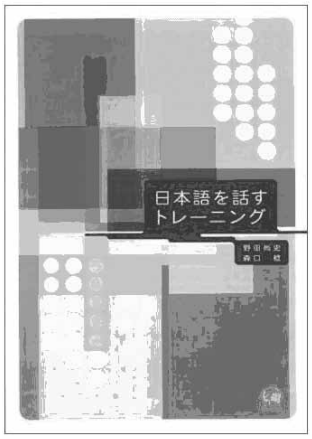
■講義のポイント

セッションは 2 部構成とする。 1 部では、簡単なウォーミングアップの後、良いプレゼンテーションとは何かを一緒に考える。 2 部では、実際に何名かにプレゼンテーションをしていただき、全員でそれに対する批評を加える。このセッションは「話す技術」の練習が目的なので、 1 部も 2 部も、参加者からの積極的な発言を期待する。

■講義の流れ

1 部：
- 参加者の紹介
- 良いプレゼンテーションとは何か

2 部：
- 具体的な場面設定に基づいたプレゼンテーション練習
- 相互批評
- 質疑応答



特別セッション

ユーザエクスペリエンス

08 UX デザイン方法について

講師

山岡　俊樹
和歌山大学 システム工学部
デザイン情報学科 教授
学術博士 認定人間工学専門家

■プロフィール
千葉大学工学部工業意匠学科卒業後、千葉大学大学院自然科学研究科博士課程修了。
企業で人間工学、製品開発、工業デザインを推進し、ISO、TC159（人間工学）の委員他も担当。
応用人間工学とデザインの視点からシステム・製品開発方法や人間中心設計方法でもあるヒューマンデザインテクノロジーを提唱。

企画担当者

栗谷　裕哉
（株）日立製作所

形式

講義

定員

50 名

■講義の趣旨

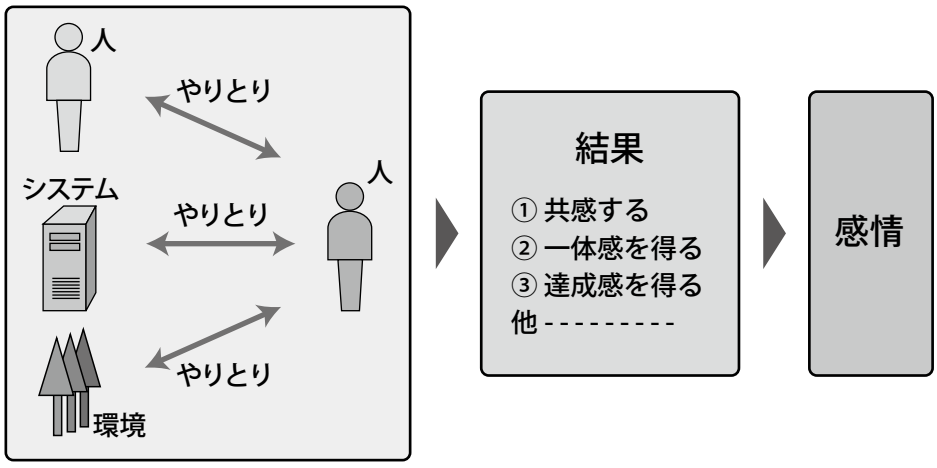
ユーザエクスペリエンス（UX）とは何かを定義し、UX をどのようにデザインするか、実現した UX をどのように評価するかについて説明する。

■講義のポイント

- 人間特性の観点から、身の回りにある UX の事例も取り上げながら、UX のデザイン方法について説明する。
- 人間工学、認知科学、工業デザイン、ユーザビリティ工学、マーケティング・リサーチ、多変量解析などを統合化し、人間優先の観点から企画・デザイン・評価を支援するシステム・製品開発方法を紹介する。

■講義の流れ

1. 時代の流れ（パラダイムシフト）
2. UX の定義
3. UX の構造
4. UX を論理的、構造的にデザインする
5. UX を評価する
6. UX をマネージメントする
7. 身の回りにある UX 事例



協会発表

教育
ライティング

01 トピック指向ライターの育成を考える

発表者

伊藤　晶子
（株）富士通ラーニングメディア
碓井　直樹
（株）クレステック

ワーキンググループメンバー

トピック指向取り組み検討 WG
主査
黒田　聡
（株）情報システムエンジニアリング
副主査
碓井　直樹
（株）クレステック
メンバー
荒木　孝充
スバル・インテリジェント・サービス（株）
伊藤　晶子
（株）富士通ラーニングメディア
大西　直美
PFU ソフトウェア（株）
関根　哲也
インフォパース（株）
田中　啓
スバル・インテリジェント・サービス（株）
中村　哲三
YAMAGATA INTECH（株）
成田　郁美
（株）リコー
長谷川　昭
（株）サン・フレア
宮田　剛
NEC デザイン＆プロモーション（株）
山崎　光彦
NEC デザイン＆プロモーション（株）

■発表の趣旨

トピック指向取り組み検討ワーキンググループは、2010 年に DITA 取り組み検討ワーキンググループとして活動を開始。構造化ルールの利用拡大と採用スキーマの多様性（下図参照）を背景として、2011 年からはより間口を広げ、TC 技術との接点を増やすことを意図して「トピック指向」をキーワードとする活動に発展。主としてライティング分野について、その事例や今後の方向性を検討することに重点を置く活動を始めた。構造化された文書をトピック単位で作成する上で求められるライティングのスキルや知識を明らかにすることが最終的な目標である。

本年はトピック指向ライターの人材育成について、意見交換や調査を行った。

■発表のポイント

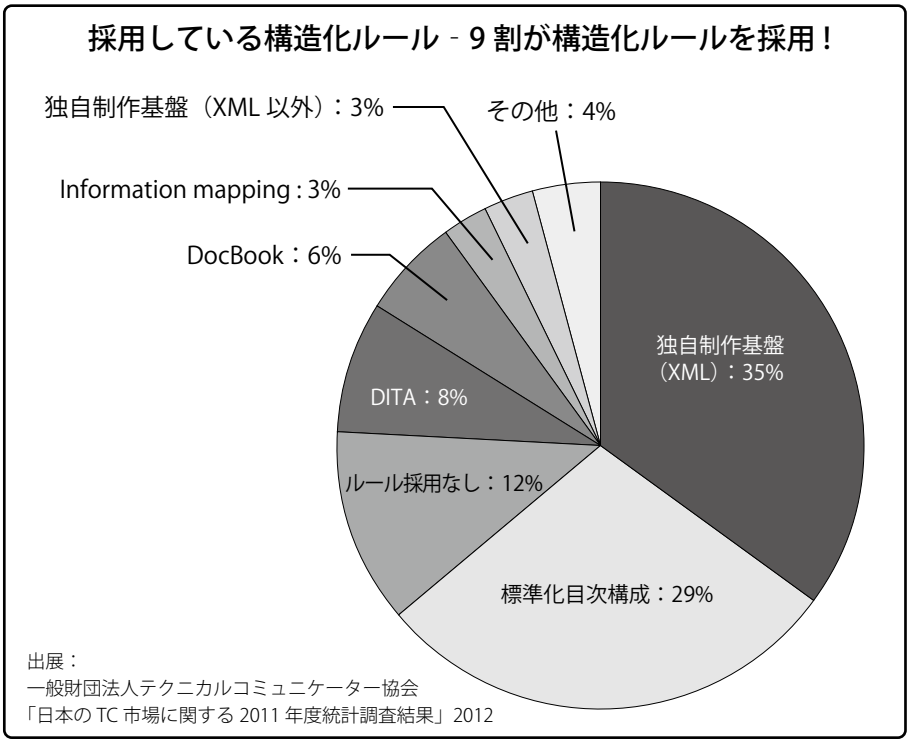
- トピック指向、トピック指向ライティングとは何か（コンテクスト指向との対比）
- ライターに求められるスキルや知識はなにか
- 指導上での課題と特徴～ TC 協会での実践を通じて
- ライティング教育補助ツールとその可能性
- 今後の展望

■発表の流れ

最初に、ワーキンググループ活動の経緯について概略を紹介する。

次に、TC 協会として 2011 年と 2012 年に企画実施したトピック指向ライティングセミナーの企画方針と内容を例として、求められるスキルや知識を例示。これに、ワーキンググループで討議した内容を加えて、構造化された文書をトピック単位で作成する上で求められるライティングのスキルや知識を明らかにする。

また、基礎教育段階での利用を想定したライティング教育補助ツールに関する考察を紹介する。



02 TC 専門課程認定制度について

TC 専門課程認定事業の創設と実施方法

発表者

高橋　尚子
國學院大學
TC 協会専務理事

ワーキンググループメンバー

TC 専門教育カリキュラム・ガイドライン検討 WG

主査
島田　能里子
ソニー（株）

メンバー
三波　千穂美
筑波大学

島本　孝子
キャリアコンサルタント

高橋　尚子
國學院大學

中村　哲三
YAMAGATA INTECH（株）

橋爪　佐代子
（株）富士通ラーニングメディア

長谷川　秀彦
筑波大学

平湯　あつし
（株）カイ

松村　敦
筑波大学

松本　紳
筑波大学

■発表の趣旨

2009 年末にスタートした「TC 専門教育カリキュラム・ガイドライン検討 WG」が、昨年度 TC シンポで発表した「テクニカルコミュニケーターに求められる知識と能力」（知識と能力のリスト）を基にした、「テクニカルコミュニケーター（TC）専門課程認定事業（仮称）」が今年度中に開始する予定である。その事業が創設された背景、これまでの過程と、具体的な内容および実施方法について情報を公開する。

■発表のポイント

・ TC 専門課程認定（または科目認定）制度の事業を創設する背景
・ 本制度の概要、大学のメリット、学生のメリット、企業のメリット
・ 本制度の実施方法（大学の申請内容・手順と認定）
・ 本制度の運用方法（学生の履修、申請と認定）
・ 大学に実在する講義科目を対象とした場合、適用しやすい学部・学科の例

といった項目について決定された詳細事項を報告する。
また、実際に申請いただくための方策、活用方法、将来構想などについても提案する。

■発表の流れ

表記の内容について報告の後、募集や実施・運用方法などについて意見を募り、議論する。

事例・研究

認知科学
電子校正

01 決着！？画面校正 VS 紙面校正

画面校正効率化に向けた実証実験

発表者

深谷　拓吾
国際電気通信基礎技術研究所
水口　実
フジ印刷（株）

形式

事例発表

ここ数年、パソコンや携帯電話だけでなく、テレビやカメラでもマニュアルの電子化が進んでいる。スマートフォンの普及とともに白物家電のマニュアルも電子化が進むのではないかと思われる。一方、マニュアルを制作する環境は、そのマニュアルのユーザー層に関係なく、以前から DTP ソフトを使って編集されていることから、すでに電子化されている。
しかしながら、制作現場は相変わらず紙であふれかえっていないであろうか？入力作業はパソコン画面上で行っても、校正だけはプリントアウトしないと不安だと考える人が多いのではないか？この心理が客観的事実に基づいているのかを調べるために紙媒体と電子媒体を使って、どちらの校正のほうがミスを多く見つけるか被験者実験を行った。

事例・研究

機械翻訳
多言語

02 Global English Writing® のご紹介

簡潔な英文による機械翻訳の実現の事例

発表者

関口　洋
（株）アイタス

形式

事例発表

日本のグローバル製造業の多くは、製品マニュアルの多言語化をおこなっているが、多くは日本語　→　英語化　→　多言語化の手順を踏んでいる。そのため、マニュアルの英語化は避けて通れない。
反面、従来は市場の大半が米国など英語圏ということで、英語ネイティブ好みの英文が重要だった。しかし、現在では、アジアなど他地域のシェア増加により、英語非ネイティブ向けの「簡潔な英文」による翻訳の需要が増えている。
また、「簡潔な英文」であれば機械翻訳 (自動翻訳) の精度が飛躍的に向上し、納期短縮など効率的な多言語翻訳が可能になる。今回、アイタス独自のスタイルガイド Global English Writing® を活用した機械翻訳実現の事例を紹介する。

事例・研究

DITA
UX

03 DITA 事例から語る TC の未来

DITA とインテリジェントコンテンツ戦略

発表者

関根　哲也
インフォパース（株）

形式

研究発表

経験豊かな DITA 実務者としての立場から、DITA 情報アーキテクチャを基盤とする新しいテクニカルコミュニケーションの方向性をひも解きます。
トピックライティング、ダイナミックパブリッシング、ソーシャル化、スマートフォーンへの展開、メタ情報、CCM、HTML5 など、現在の最新の情報技術、情報開発の視点から実例を交え、わかりやすく、企業やテクニカルコミュニケータにとってのインテリジェントコンテンツ戦略の重要性を紹介します。

事例・研究

日本語の表記第
「ら」抜き言葉

04 ら抜き言葉の考察する

あなたは「食べれる」派？「食べられる」派？

発表者

貝島　良太
（有）アトリエ・ワン

形式

研究発表

2009 年の研究発表（発 01）での『「ください / 下さい」の使い分け』、2010 年の研究発表（発 01）での『助数詞の「ka」』に続き、今年は可能の意味を表す場合の動詞の「ら抜き」表記についての考察です。動詞の「ら抜き」の表記は、たとえ会話では許されても、マニュアルなどの正式文書では許されません。「食べれる」は「食べられる」に、「見れる」は「見られる」に直すのが正しいのですが、「書ける」は「書けられる」とはしません。どのようなときに「ら」を入れたり抜いたりすればよいのかの簡易判別法を教えます。この簡易判別法をあなたのマニュアル表記にぜひお役立てください。

事例・研究

XML
クラウドシステム

05 IT 取扱説明書制作システム

執筆から翻訳、版下 PDF 作成まで

発表者

吉川　勝
パナソニックシステムネットワークス㈱

形式

事例発表

当社の電話関連事業においては、世界の数多くの国々に電話関連商品を輸出し、世界各国の皆様にご愛用いただいているが、取扱説明書では、実に 40 言語以上に及ぶ言語で制作している。2008 年の TC シンポジウムでは、PBX（小中規模　構内電話交換機）取扱説明書の 12 ヶ国語同時展開実現のための取り組みをご紹介させていただいた。今回は、前回紹介した IT 取扱説明書制作システム（PIXS：Panasonic Integrated XML System）に Web 執筆ツールなどを追加し、システムとしてのクラウド化が完成した。その取り組みについてご報告いたします。

本システムの特徴は、次の 3 つに要約される。

1. 多言語展開を得意とする、XML をベースとしたクラウドシステムサービスの構築
2. ベース言語（日本語、英語）執筆、独自翻訳支援ツールによる英語からの各国語翻訳、そして版下出力（PDF）までを 1 クラウドシステムで構築
3. 製品表示文章データベースとの連動による用語管理の効率運用と自動反映

事例・研究

ユーザビリティ
コスト削減

06 制作工程改革が決め手

ユーザビリティ向上とコスト削減を両立する

発表者

田中　千代
（株）エレクトロスイスジャパン
マルコス　エーリッヒ
（株）エレクトロスイスジャパン

形式

事例発表

取扱説明書への記載事項が増加の一途をたどる一方で、ライティングにおいては文字数削減とコスト削減が強く求められています。

開発者は製品情報を広範囲にわたって記述する傾向がありますが、この情報にはユーザーに関わりのないことが多く、理解する上での障害にすらなります。これを改善するには、製品開発の段階からユーザー視点での参加が必要となります。

また、ライターとデザイナーの連携を強化することによって、理解しやすく視覚的に訴求力のある説明書を創りだすことができます。

しかも、ユーザビリティの向上効果だけでなく、印刷や翻訳のコスト削減も徹底的に追求できます。

IT 技術の進歩がこれらの工程改革と工程自動化の両立も可能にしました。

事例紹介では、文字数をどのように削減できるのか、説明書の作成工程におけるユーザビリティテストの効果について、そして工程自動化の工夫について解説します。

事例・研究

英文テクニカルライティング
テクニカルライター教育

07 非英語圏地域での英文 TW 養成

英文 TW の採用と教育、現実と未来

発表者

KIM, Yang Sook
HansemEUG Inc.
HA Ji-young
HansemEUG Inc.

形式

事例発表
日本語での発表となります。

日本語と韓国語は構造的に似ているが、この二つの言語は英語とは構造が大幅に異なっている。私たちはだいたい私たち自身の言語で制作された文書と翻訳された文書の違いにすぐ気がつく。言語の構造が異なって翻訳した文書と対象言語に作成した文書の言語の品質が同じではないからだ。翻訳した文書より制作した文書の品質が言語の品質としては優れているが、非英語圏地域で最初から英語で制作するマニュアルを作り出すのは簡単な事ではない。私たちはどうして英文マニュアルを開発できるテクニカルライターを養成するか、韓国市場の英文マニュアル開発に対する需要、英文マニュアルライターの採用と教育、現場で感じる限界点と今後の方向性に対して私たちの考えを、私たちが体験している事例をベースに共有しようと思う。

事例・研究

社会的認知
職業論

08 テクニカルコミュニケーターは専門家か？

発表者

森口　稔
フリーランス

形式

研究発表

日本では、「テクニカルコミュニケーション」という言葉がまだ広く社会的に認知されていない。TC 学科を持つ大学はないし、理論的な概説書も出版されてない。メーカー内部でも不況のあおりを最も受けやすい部門と言われる。このような状況を考えたとき、テクニカルコミュニケーターは、はたして、一つの「専門家」と呼べるのだろうか。本発表では、専門家としての条件を、知識と技能、教育訓練、法律に基づいた資格、社会的評価と収入、決定権の 5 つの観点から捉え、いくつかの他の専門的職業を概観した後、テクニカルコミュニケーターが専門家と呼べるかどうかについて考える。

事例・研究

日本語表記法
日本語文法

09 日本語提題表現の書き換え規則とその評価

発表者

猪野　真理枝
東京外国語大学
桑野　裕康
パナソニック（株）
佐野　洋
東京外国語大学

形式

研究発表

本稿では、製品取扱説明書に頻出する文型である提題表現を、公共的（万人向け）表現としての意味の伝達の観点から、文章改善する（曖昧性を減らす）ために書き換える規則を提案する。提案する書き換え規則の評価実験を行い、書き換え規則を用いて表現を変えた文では、提題表現部分の解釈の曖昧性が減少することが分かった。日本語表現としての自然さの評価も併せて行った。曖昧性の減少と表現の自然さにおいてトレードオフの点があることが確認された。

事例・研究

多言語化
ローカライズ

10 テクニカルコミュニケーションに役立つデジタル・ドキュメント技術動向

文書の作成、管理、配布、アーカイブ

発表者

今村　誠
三菱電機（株）
情報技術総合研究所

高橋　慈子
（株）ハーティネス

形式

研究発表

近年、企業や政府・自治体では、高度化・多様化・グローバル化するサービスや製品に関連する大量かつ複雑な情報や多言語化したコンテンツを、読み手に応じてわかりやすく伝達するニーズが高まっています。情報処理学会デジタルドキュメント研究会（DD 研）ではさまざまな観点から、こうした文書作成への新たなニーズを探るシステム、手法、標準化、教育などをテーマに研究、議論してきました。

本発表では、DD 研で取り上げてきた中から、コンテンツ管理システム、校正管理ツール、情報アーキテクチャ、構造化文書処理などの文書の作成、管理、配布を中心に、情報処理技術の動向を紹介いたします。

商品紹介

01 Author-it のご紹介

トピック指向文書作成・管理・出力の新製品

発表者
本多　利光
アイ・ディー・エー（株）

「Author-it Cloud 6」（オーサイット・クラウド 6）は、Author-it Software Corporation(本社ニュージーランド) が開発した、トピック指向のオーサリング・コンテンツ管理・パブリッシングの統合ソフトウェアです。
欧米を拠点とするグローバル企業を始め、3500 社以上の導入実績があります。
多言語ドキュメントの制作・管理で問題を抱えている、マニュアルご担当者、海外販促ご担当者は「Author-it Cloud 6」によって、多言語の多様なドキュメントを一元的に管理・制作することができます。

■「Author-it Cloud 6」の主な特長と利点

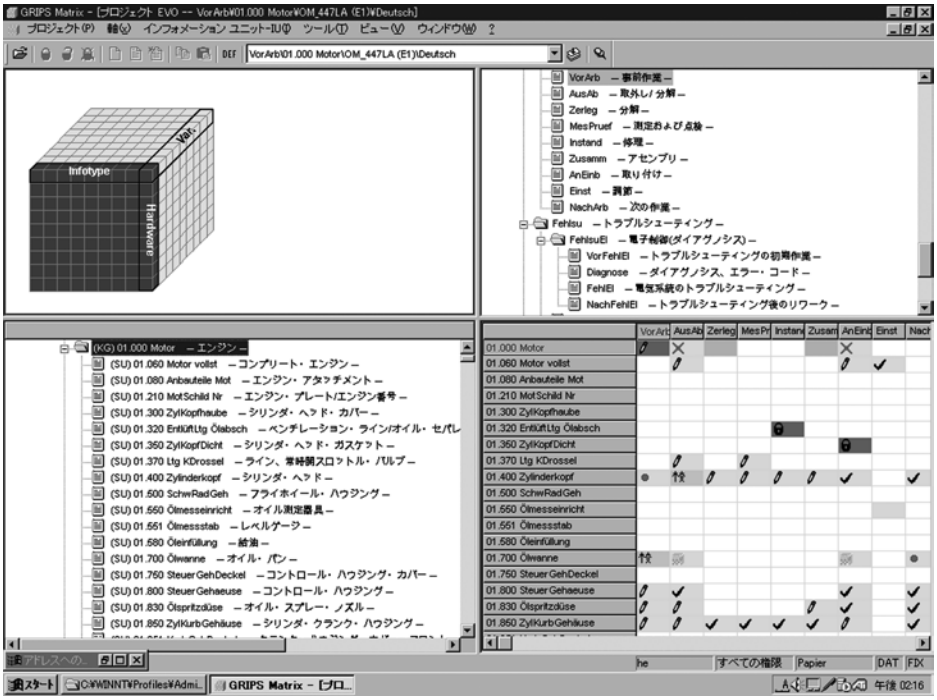
- トピック指向オーサリング、コンテンツ管理、パブリッシングが一つに統合されています。
- 一か所の変更作業で、共通する全てのコンテンツを瞬時に更新できます。
- 既存コンテンツの再利用が最大限に行えます。
- 国内・海外の複数拠点から同時アクセスによる協働が可能です。
- Microsoft Word 同様の直観的な UI が備わっており、XML の知識が無くても、誰でも操作できます。
- 同一コンテンツを PDF、ヘルプファイル、WORD、PowerPoint、HTML、XML など多様な形式、レイアウトに出力可能です。
- 視覚的な進捗管理とユーザー権限設定機能。
- 修正履歴の保存機能。
- 多言語対応の翻訳管理機能（Trados との連携も可能）。

他

02 統合情報管理システム - GRIPS

発表者
小倉　富規子
（株）シュタール ジャパン

今年の４月、ドイツ政府後援のドイツ中小企業イニシアチブより「IT INNOVATION PRIZE（IT 革新賞）」を受賞したシュタール社の GRIPS は、いわゆる CMS（コンテンツマネージメントシステム）とは一線を画す画期的な「統合情報管理システム」です。Unicode はもちろん、DITA などの文書制作の国際標準規格にも対応していているほか、オーサリングからメディア作成まで多言語ドキュメンテーションに必要な機能を網羅しています。言語やフォーマットを問わず自動的にレイアウトを生成し、出力・配信を行うため、配信実行の直前に変更を加えることも可能です。一段と強力になった翻訳支援ツール Transit NXT や翻訳プロジェクトのワークフロー管理システムである STAR James との連携によりドキュメンテーションのコスト削減、納期の短縮、品質向上を実現します。



商品紹介

03 “ロングテール”言語

新興国の希少言語への対応戦略

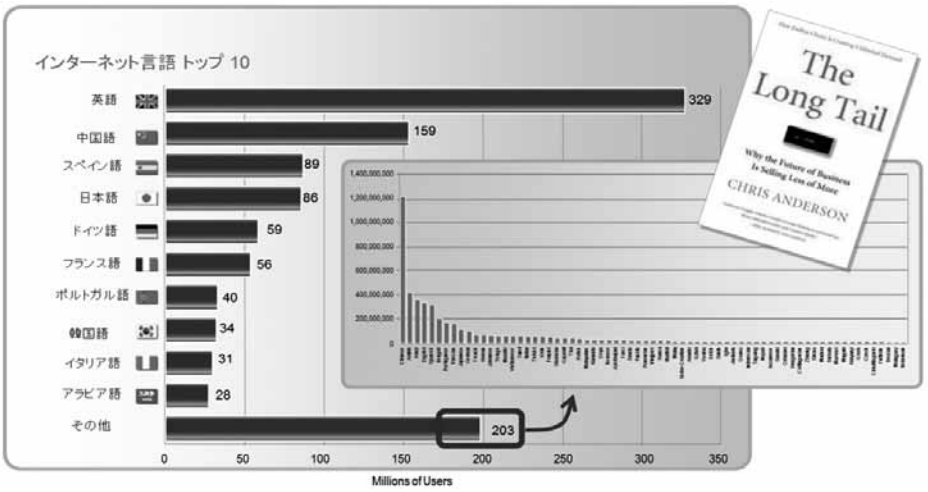
発表者

塚田　正郎
ライオンブリッジジャパン（株）

ローカリゼーションの世界で、FIGS（French, Italian, German, Spanish）と言っていたのは遠い昔、昨今の新興国の目覚ましい発展によりローカライズ対象言語は飛躍的に広がりました。Thomas L. Friedman のベストセラー「The World is Flat」から 7 年、Byte Level Research の毎年の「The Globalization Report Card」レポートで、サイトが展開されている言語の“平均”数が 20 言語を超えてからすでに 5 年が経過しました。Top 10 のサイトでは、対応言語数は 40 言語を優に超えています。

スペイン語などの類似言語（European Spanish と Latin Spanish）、東欧言語、中国、韓国以外のアジア言語、さらにはインドの現地語など、どこまで対応するべきか企業のローカリ担当者は頭を悩ませているのではないでしょうか？

ロングテール言語とは、弊社で定義している概念であり、ロングテール理論を言語の世界に当てはめると、新興国の小数希少言語を意味しています。
このプレゼンテーションでは、これからの言語展開を考える上で基礎となる、ロングテール言語についての情報とライオンブリッジの取り組みをご紹介します。



04 ProofChecker PRO と pdfToolbox のご紹介

2 種のツールで効率よく正確なデータ作成

発表者

古賀　正
（株）Too

PDF に関する 2 種類のソフトウェア、ProofChecker PRO と pdfToolbox のご紹介をさせていただきます。

Proof Cheker PRO は、校正前後の PDF での正確かつ綿密なデジタル校正を実現します。

特に、旧版からの新版作成や、多カ国語版のマニュアルの制作現場でご利用いただいております。

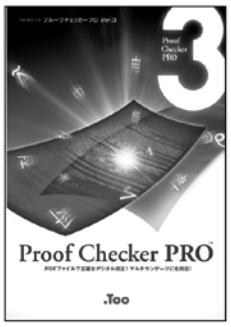
ソフトウェアの機能紹介と期間限定で利用したい、複数本を一年間だけ利用したい等の校正現場の様々なご要望にお答えする、新製品　仮称　Proof Chekcer PRO のレンタルサービスをご紹介させていただきます。

pdfToolbox は、ドイツで開発された PDF 編集ツールです。その技術力の高さは Adobe 社にも認められ、AdobeAcrobat にプリフライトなどの機能をライセンス提供しています。PDF データの編集をより簡単に実現できるツールです。

プリフライトチェック機能だけでなく、簡単な操作で OFFICE ファイルから印刷用 PDF にすばやく変換し、印刷、Web 用など、様々な用途に使用される PDF を最適化する方法などをご紹介いたします。

●「ProofCheckerPRO」

文字の変更箇所はマークが表示されます。



●「pdfToolbox」

pdfToolbox は、プリフライトを行い問題を発見し、素早くカンタンに修正するためのツールです。
印刷や WEB 様など用途に合わせて簡単に PDF を最適化する事が可能です。

商品紹介

05 MadCap Flare のご紹介

シングルソースで印刷文書・ヘルプ・ePub 作成

発表者

田淵　義人
エクセルソフト（株）

多数の形式のドキュメント／ヘルプを出力できる XML ベースのシングルソース コンテンツ オーサリングツール『MadCap Flare』の製品概要をご紹介します。
MadCap Flare は、テクニカル ライター、コンテンツ作成者、ドキュメント専門家向けの XML ベースのオーサリングおよびパブリッシング ソリューションです。
Flare の直感的なユーザー インターフェースにより、シングルソース ドキュメントでのコンテンツ作成と管理、既存のオーサリング プロジェクトのインポート、幅広い形式でのパブリッシュのすべてが簡単になります。
目的の出力形式を選択することで複数形式のワンクリック パブリッシュが可能になります。クロスブラウザ、クロスプラットフォーム オンラインヘルプ、PDF および Word などの印刷ドキュメント、モバイル デバイス用に最適化したオンラインヘルプを含む多様な形式のコンテンツをパブリッシュします。

■ MadCap Flare の特徴

- マルチ チャンネル パブリッシング
  - HTML5 にも対応したクロスブラウザ オンラインヘルプ形式
  - EPUB 出力を含むモバイル パブリッシング
  - PDF/XPS/docx/DITA を含むハイエンドな印刷パブリッシング
  - HTML Help
- 管理者と専門家用の無償レビューツール
- Word、FrameMaker、DITA ファイルを簡単にインポート可能
- コンテンツ管理、プロジェクト管理

06 FrameMaker 関連情報発信第 2 弾：FrameMaker と RoboHelp の最新情報

発表者
加藤　徳義
アドビシステムズ（株）
Saibal Bhattacharjee
Adobe Systems
Tom Aldous
Adobe Systems

アドビのテクニカル・コミュニケーター向け製品の最新情報をご紹介いたします。
誕生して 25 年を超える FrameMaker、20 年を超える RoboHelp は、世界の多くのユーザー様にご利用いただいていますが、時代の変化に対応して、ますます進化を続けています。
FrameMaker は、最新の XML/DITA1.2 をネイティブにサポートし、構造化された XML コンテンツを制作できるとともに、Microsoft Word などで過去に作成され蓄積されてきた非構造化文書を構造化した XML コンテンツに簡単に移行することができます。
また、役割ごとのユーザー視点での見やすさ、使いやすさを追求しています。
レビュー用 PDF の作成や連携、RoboHelp とのシームレスな CMS との接続も用意されていますので、企業やチームの生産性向上に役立ちます。
ヘルプ作成とパブリッシングのツールである RoboHelp 最新版では、最近急速に拡大している各種のモバイルデバイスへのパブリッシングにも対応します。また、作成済みの従来のヘルプを、ソーシャルメディアにつながれた次世代のユーザー支援に変換する強力な機能も用意されており、シングルソース化を加速できます。
複数の作成者や複数のレビュアー間でのワークフローを合理化して、生産性の向上、市場投入期間の短縮が期待できます。
当セッションでは、アドビの製品開発部門より、製品開発責任者が来日して、詳細をご紹介させていただく予定です。

07 テクニカル・コミュニケーション・スイート最新版を利用して生産性を向上

発表者
加藤　徳義
アドビシステムズ（株）
Saibal Bhattacharjee
Adobe Systems
Tom Aldous
Adobe Systems

Adobe Technical Communication Suite には、XML/DITA の構造化文書や非構造化文書のオーサリングツールである FrameMaker、ヘルプ作成やさまざまなメディアやデバイスへのパブリッシュができる RoboHelp、動画などでドキュメントに魅力を与える Captivate、高度なドキュメント作成ツールの Acrobat X Pro をはじめとする各単体製品がツールキットとしてまとめられており、お買い得な価格設定になっております。

このスイートは、単なる単体製品の詰め合わせにとどまらず、テクニカル・コミュニケーションの生産性向上に寄与する製品間の連携機能とワークフローが強化、追加されています。

先進的な各機能と連携の実際をご紹介しながら、構造化 XML/DITA 1.2 に対応し、マルチメディアを駆使した魅力的なドキュメント作成から、チームでの効率的で最少投資を可能にするレビュープロセス、シングルソース・マルチデバイス・パブリッシングにいたるまで、全体にわたっての高い投資効果を期待できます。

当セッションでは、アドビシステムズ・プリントアンドパブリッシング事業部より、製品開発責任者が来日して、実務に役立つ製品情報をご提供させていただく予定です。

08 多言語ドキュメント作成のスピードアップ、コスト削減

部品（モジュール）単位での編集による取扱説明書／整備解説書の製作効率化事例

発表者
竹内　一郎
クボタシステム開発（株）
奥村　真
MHI さがみハイテック（株）

本プレゼンテーションでは、ドキュメント作成システム「PROSPERAS」の概要と翻訳管理クラウドサービスを活用した多言語ドキュメント作成の効率化事例をご紹介いたします。

［当システムの特徴］

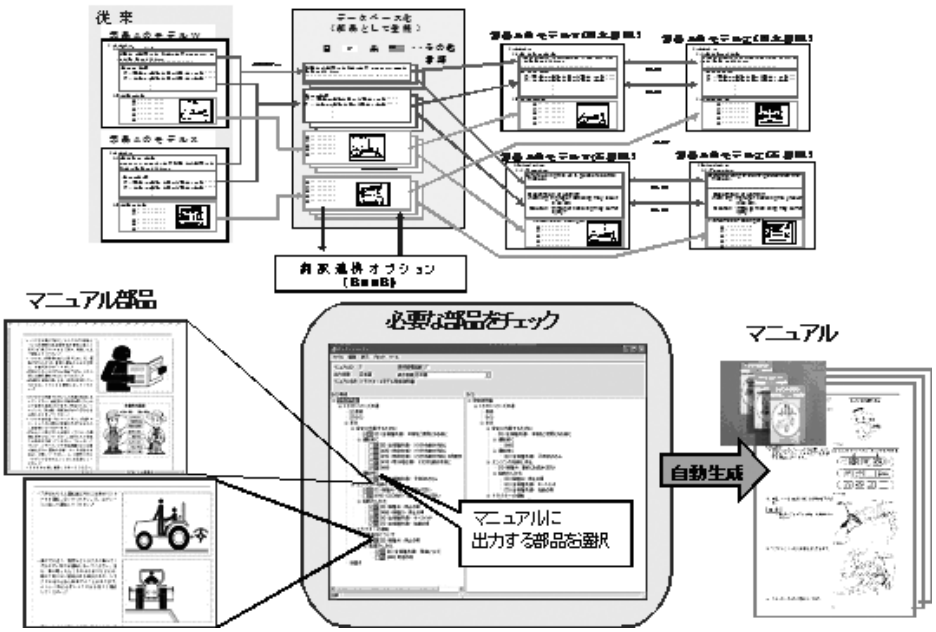
『PROSPERAS』は、製造業の取扱説明書／保守解説書などのコンテンツを効率よく作成するパッケージソフトです。“ 再利用できる部品として管理し、多くのドキュメントで共通利用する “ ことで製作期間を短縮でき、素早く情報発信できます。また、作成コストが大幅に削減できます。

［問題解決例］

- 個人の感性で作成していたため、ドキュメント毎にバラつきがあった。
  ⇒部品化、DB 化することでバラつきを防止。
- 翻訳外注コストが多くかかっていた。
  ⇒原文の変更部分だけを抽出し翻訳できるので、翻訳コストを大幅に削減。期間を短縮。
- 複数マニュアルにわたる改訂作業に、多くの人件費を投入していた。
  ⇒１回の修正で同一部品を使っているマニュアルを全て修正できる。

［類似ドキュメント製作の生産性向上と均質化の実現］

- 兼用／流用できる単位でドキュメントを部品化
- 部品を選んでマニュアルを生成
- 原文／訳文の翻訳状況が対で管理できるので、原文が変わったところだけを翻訳
  →翻訳後、言語を切り換えて自動生成すれば翻訳マニュアルを生成



［事例紹介］

MHI さがみハイテック株式会社様における導入事例をご紹介させていただきます。
導入前の課題、解決策及び導入効果についてご紹介させていただきます。

商品紹介

09 DTPスキルをWebスキルに移行しよう！

Adobe Creative Suite 6 の活かし方

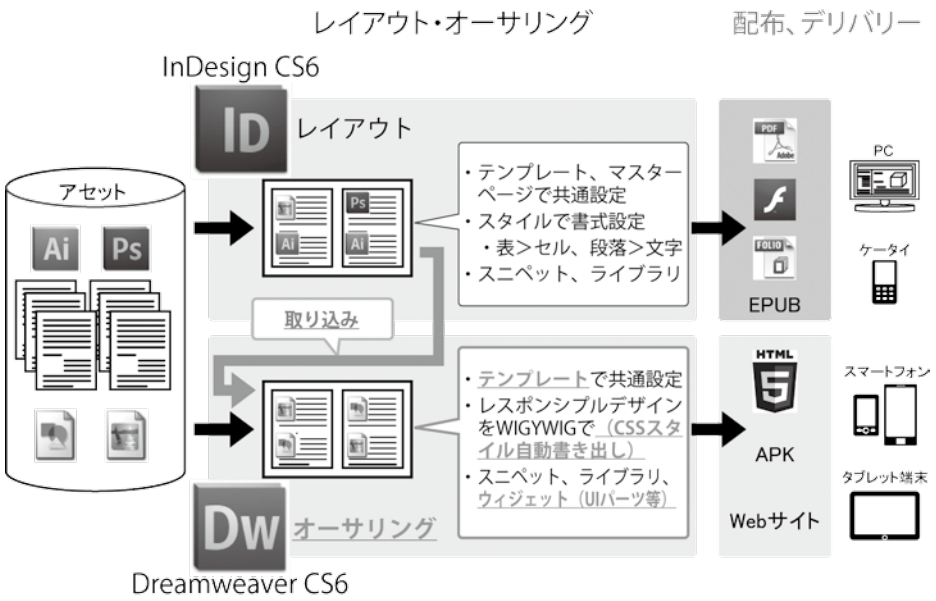
発表者

阿部　成行
または
西山　正一
アドビ システムズ（株）
若山　陽介
（株）情報システムエンジニアリング

昨年の TC シンポジウムのプレゼンテーションセッションでは、シンポジウムのプログラムをスマートフォン、タブレット端末向けコンテンツに変換するプロセスを紹介。InDesign CS5.5 でレイアウトしたデータを html 書き出し、Dreamweaver CS5.5 に取り込んでマルチスクリーン対応させるソリューションを提案しました。昨年の段階では CSS3 の知識がある程度必要で、しかも手作業でタグを追加する必要もありました。

しかし、今年 5 月にリリースされた Adobe Creative Suite 6 に含まれる Dreamweaver CS6 では、WISYWIG で「レスポンシブル」なデザインが検討できるようになっています。Web 用途への機能が強化された InDesign CS6 と連携させることで、レイアウト・オーサリングのワークフローがさらに強力になりました。新登場アニメーション作成ツール Edge などと組み合わせることで、従来 Flash で作成していた Web 向けのコンテンツまでもそのターゲットに含めることが可能となっています。
Web 系ツールへの入り口として Adobe Creative Suite6 をご活用いただき、スマホ・タブレット端末時代に対応した新しいタイプの使用説明情報の企画や作成のお役立ていただければ幸いです。

この商品紹介セッションは、TC 協会創設 20 周年記念イベントの特別企画セミナー「スマホ・タブレット端末時代のマニュアル制作環境はどうなる！？」の内容を掘り下げ、具体的なサンプル、ワークフロー、オペレーションなどを提示しながらツールの機能を詳しく紹介するものです。



10 和文校正支援の定番ツール！

InDesign/Acrobat で Just Right! をフル活用

発表者

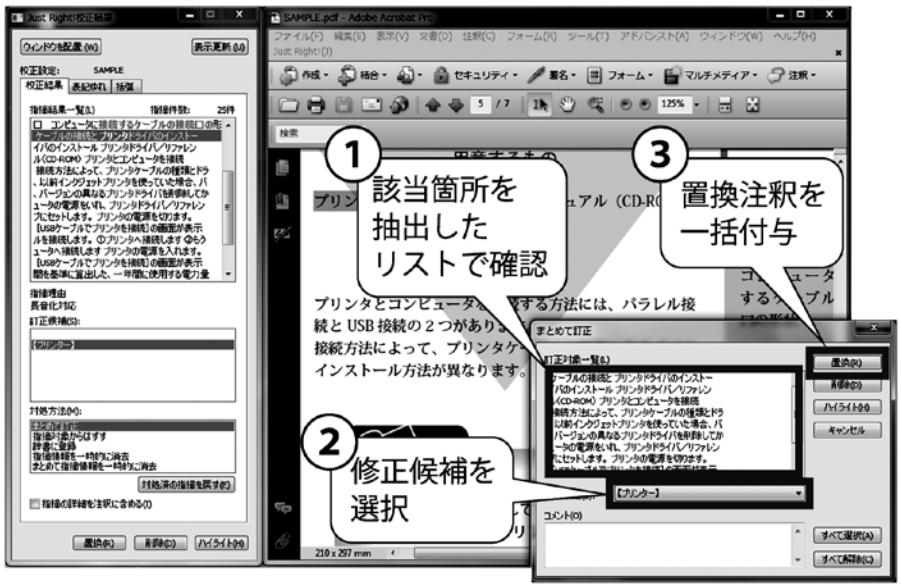
関　雅代
(株) 情報システムエンジニアリング

「Just Right!」は、誤字脱字、表記ゆれ、あいまいな修飾表現などを幅広くチェックできる和文校正支援ツールです。校正辞書をカスタマイズして、独自のチェック項目やルールで校正することが可能です。用語統一にも活用できるので、翻訳品質管理を目的とする翻訳元和文原稿のテクニカルタームの統一に効果的です。

この Just Right! を、InDesign や Acrobat から直接使えるようにしたのが「Just Right! 連携プラグイン」です。連携プラグインを使うことで、InDesign データや PDF に対して、直接校正作業がおこなえるようになります。

文章校正後の指示書作成、修正指示の反映、そして反映チェックの工程でも、連携プラグインを使えば、一括注釈付与、一括反映、一括チェックがおこなえるので、一項目ずつ、一箇所ずつおこなっていた注釈付与や修正反映の時間をぐっと短縮することができます。しかも、該当箇所をきちんと確認した上での一括処理なので、不要な変更を加えてしまう心配もありません。
また、修正内容をあらかじめ校正辞書に登録しておけば、選択するだけで修正入力できるので、指示ミスや反映ミスを防ぎつつ、作業の手間を省くことができます（下図参照）。

今回の発表では、連携プラグインを使った制作作業効率 UP の実例をご紹介します。
・誤字脱字の検出や表現統一に活用する
・テクニカルタームの統一に活用する
・PDF を利用した校正作業に活用する
・スタイルガイドの組織的運用を実現する（応用例）　ほか



例：「プリンタ」の長音化対応指示をまとめて注釈付与

商品紹介

11 軽量 3D データ XVL で効率的にイラスト作成

3D データから高品質イラスト作成、大幅なコスト削減を実現

発表者

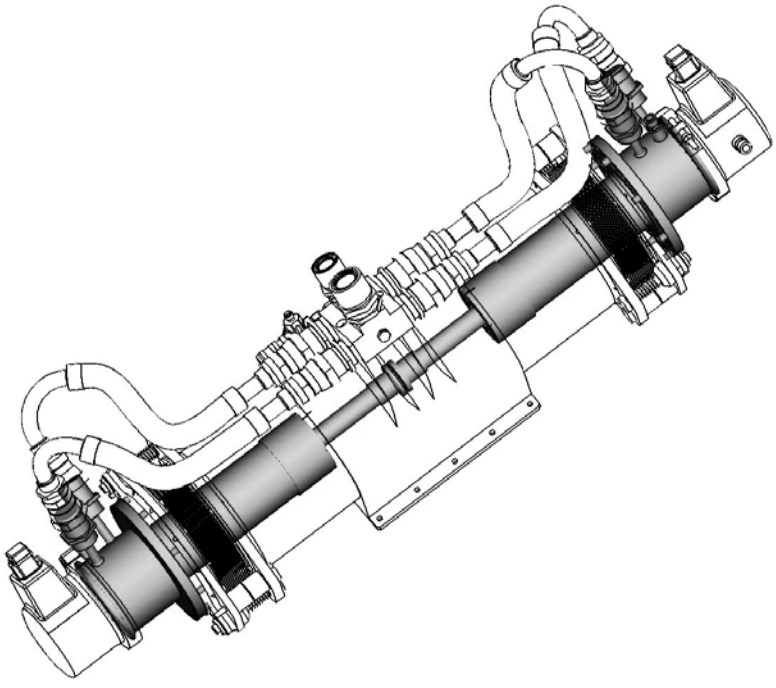
清川　舞
ラティス・テクノロジー（株）

従来、テクニカルイラストの作成は実物の試作品や試作品の写真などを材料に、ドローイングソフトで作成されていました。しかし、この作業には十分なスキルと、相応の工数が必要です。そこで、最近では設計部門の CAD データを利用し、その 3D 形状からイラストを短時間で作成すること方法が普及しつつあります。これは、3D CAD の一般化に伴い、3D データが流通するようになったからです。

ところが、イラスト作成部門で CAD データを利用するには、① CAD システムの導入コストが増える、②大容量の CAD データは、イラスト作成部門が利用しているような PC で取扱うには負担が大きい、という致命的な問題があります。そこで、ラティスは製造業で普及する軽量 3D フォーマット XVL を利用することで、イラストを安価に、かつ、軽快に作成する方法をご提案します。

ラティスの XVL 製品では、3D CAD データから軽量 3D フォーマット XVL に変換した後、XVL の軽量性を生かして、一般的なノート PC でも 3D 形状を閲覧、イラスト用に編集することができるようになります。イラスト作成部門では CAD 導入コストを抑えながら 3D データを活用し、低コストで均質なイラストを、手軽に短時間で作成可能です。

一旦 XVL データにさえなれば、Microsoft Excel に取り込み、3D データと画像、表が連動した帳票を簡単な操作で作成することもできます。また、作成したイラストデータを利用した、パーツカタログ等を Web 上で共有、閲覧することも可能です。iPad での 3D 表示機能で、ペーパーレス環境を実現します。本セミナーでは、3D を利用したさまざまなドキュメントソリューションで、次世代のイラスト作成環境と、デジタルドキュメントの新しい可能性をご紹介します。



東京開催 参加申し込み方法のご案内

テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2012【東京開催】に参加ご希望の方は、次の要領で「参加申込書」にご記入の上、FAX でお申し込みください。

入場券

2 日間の有効券で、基調パネルディスカッション、パネルディスカッション、
事例･研究発表、TC 関連商品紹介に参加できます。

- 特別割引があります。TC 協会法人会員会社の社員は会員料金で参加できます。
  申し込みは会社単位または部署単位でまとめてお願いします。

特別セッション券

特別セッションに参加希望の方は、入場券と特別セッション券を購入してください。なお、特別セッション券のみの購入はできません。特別セッション券は特別セッションの座席指定を兼ねており、1 枚 1 講座です。

参加料金	TC 協会会員	非会員	学生
本開催 2 日間	15,000 円（非課税）	21,000 円（消費税込）	3,150 円（1 日消費税込）
特別セッション	10,000 円（非課税）	15,750 円（消費税込）	5,250 円（消費税込）

- 学生のみ 1 日単位の申し込みになります。定員オーバーの場合は、ご遠慮いただくことがあります。

特別セッション 02 に参加するためには、テキスト「英文テクニカルライティング 70 の鉄則」日経 BP 社　2,100 円（消費税込）が必要です。お申し込みの方でテキストをお持ちでない方へは、別途 2,100 円（消費税込）ご請求させていただきます。
すでにテキストをお持ちの方、別途、書店などで購入される方は、当日必ずご持参ください。

参加料金の支払い方法

- 同封の郵便払込用紙を使って下記宛に振り込みをお願いします。なお、振込料は各自にてご負担ください。
- お支払いいただいた参加料金は事情を問わずお返しできませんので、ご了承ください。
- 郵便払込用紙表面の通信欄に参加者名（複数名でご参加の場合は代表者名）を必ずご記入ください。

口座番号 -00140--0-567682
加入者名 - 一般財団法人 TC 協会

お問い合わせ

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会
TEL：03-3368 -4607（月曜日～金曜日 10 時～ 17 時）
FAX：03-3368-5087

ホームページのご案内

http://www.jtca.org/symposium/

TC 協会のホームページの中に、TC シンポジウムのホームページを用意しました。TC シンポジウムの案内やプログラム内容など、情報を随時掲載する予定です。また、プログラムの変更などが発生した場合にはシンポジウム直前まで更新を続けます。どうぞご利用ください。

ご注意

特別セッションへの参加を希望される方は、参加申込書にご希望の特別セッション名（例 特 01）を必ずご記入ください。特別セッションについては、先着順で受け付け、定員になりしだい締め切らせていただきます。特別セッションを申し込まれた方には、「特別セッション券」を送付しますので、到着後に振り込みをお願いします。
プログラムの内容は変更される場合があります。ご了承ください。

東京開催 参加申込書

希望するものに印をつけてください。 特別セッションの参加には「入場券」に加えて「特別セッション券」が必要です。

1 代表者名（入場券などの送付先）

● □入場券のみ □入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 8/28 特 -_____8/29 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

2 参加者

● □ 入場券のみ □ 入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 8/28 特 -_____8/29 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

3 参加者

● □ 入場券のみ □ 入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 8/28 特 -_____8/29 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

4 参加者

● □ 入場券のみ □ 入場券と特別セッション券（ ）枚

● **[特別セッションの方のみ記入]**（定員になりしだい締め切ります）

参加希望特別セッション名 8/28 特 -_____8/29 特 -_____

TC 協会 □会員 □非会員

参加予定をご記入ください ▶ □基調パネル □パ 01 □パ 02 □パ 03 □パ 04 □パ 05 □パ 06 □パ 07 □パ 08 □パ 09 □パ 10

連絡先 郵便番号、住所、会社名、部署名、電話番号をお書きください。

請求書□要 領収書□要

参加料金

特別セッション 02 に参加する方で、テキスト「英文テクニカルライティング 70 の鉄則」日経 BP 社 2,100 円（消費税込）が必要な方はチェックしてください。

□必要

		会員（非課税）	非会員（消費税込）	払込合計金額
一般	入場券のみ	15,000 円 X 名	21,000 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 1 枚	25,000 円 X 名	36,750 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 2 枚	35,000 円 X 名	52,500 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 3 枚	45,000 円 X 名	68,250 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 4 枚	55,000 円 X 名	84,000 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 5 枚	65,000 円 X 名	99,750 円 X 名	円
学生	入場券のみ		3,150 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 1 枚		8,400 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 2 枚		13,650 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 3 枚		18,900 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 4 枚		24,150 円 X 名	
	入場券と特別セッション券 5 枚		29,400 円 X 名	円

申込先 **一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 FAX 03-3368-5087**